



[www.hakodate-otani.ac.jp](http://www.hakodate-otani.ac.jp)



# HAKODATE OTANI COLLEGE

講義概要 2022 こども学科 1年

# こども学科

## <教育目的>

保育者として必要な基礎知識、技能を学ぶと同時に、職業人としての人格向上を目指し、すべての人に対してあたたかな心と優しさを持ち、ともに育ちあうことを大切に作る人間性豊かな保育者・支援者の育成を目的とする。

## <教育目標>

1. **[多様な専門性を身につけた保育者の養成]**  
社会や地域、時代のニーズにあった知識・技術を習得するための教育を実施する。
2. **[人を育てる人・支援する人として社会性を持った保育者の養成]**  
他と協調できる良好な人間関係の構築を目指したコミュニケーション能力の育成を目指すと同時に、社会人としての人間形成に努める。
3. **[心豊かに表現し主体的で行動力のある保育者の養成]**  
様々な活動体験・表現活動を通して、多様な価値観や豊富な生活力を育む。

## <学習成果>

1. 保育の内容・方法を理解し、子どもの実態に応じた保育方法を探究できる。
2. 子どもの理解に基づいてコミュニケーションをとることができ、主体的行動がとれる。
3. 豊かな表現力を持って、子どもの理解と支援ができる。
4. 保育教諭としての資質を身につけ、専門職として地域に貢献できる。

## <卒業認定・学位授与の方針>

学則に基づき、修業年限以上在籍し所定の単位数を修得するとともに、以下の素養を身につけた学生に対して短期大学士の称号を授与します。

1. 保育の内容や方法を習得すると同時に、様々な子どもに対応できる人間性を獲得する。
2. 子どもの実態を理解し、豊かな表現力・コミュニケーションによって、主体的・積極的に子どもの活動を支援できる。
3. 地域からの要望や地域の活動に貢献する奉仕の精神を持ち、総合的な人間力や保育者としての資質の向上を継続的に図ることができる。

## [講義概要]

### 授 業

- (1) 授業はすべて教育課程に基づいて実施する。
- (2) 授業は集中講義及び休業日に実施する科目を除き、すべて時間割に従って実施する。
- (3) 時間割は教育課程に基づき、学期毎に編成する。
- (4) 時間割や教室の変更は教務の承認を得なければならない。
- (5) 各講義の開講は次のとおりとする。

2022年 こども学科カリキュラム (2022年度入学者)

分類	科目	科目No.	学習成果との関連	卒業認定・学位授与の方針	実務経験のある教員による授業科目	単位	授業区分	時間	2021年(1年)		2022年(2年)		卒業要件	幼免	保育士	社会福祉主事(任)
									前期	後期	前期	後期				
									通年		通年					
教養教育科目	人間学 I	E101	4	1		2	講義	2	2				◎		◎	
	人間学 II	E102	4	1		2	講義	2		2			△		○	
	こころの科学	E103	1	1		2	講義	2	2				△		◎	
	日本国憲法	E104	4	1		2	講義	2	2				△	◎	○	
	障害者福祉論	E105	4	3		2	講義	2				2	△		○	◎
	現代地域学論	E106	4	3		2	講義	2					△			
	情報処理演習	E107	4	2		2	演習	2	2				△	◎	○	
	英語	E201	2	1・2		2	演習	2		2			△		◎	
	英会話	E202	2	2		2	演習	2	2				△	◎	○	
	健康科学論	E301	1・2・3・4	1		1	講義	1	1				△	◎	◎	
	健康とスポーツ	E302	1・2・3・4	2		1	実習	3	3				△	◎	◎	
総合教養演習	E401	4	3		1	演習		通年		通年		△				
専門教育科目	幼児音楽	S301	1・3	1・2		2	演習	2	2				◎	◎	◎	
	保育音楽	S302	1・3	1・2		1	演習	2		2			○		◎	
	音楽表現演習 I	S303	1・3	1・2		1	演習	2			2		◎		◎	
	音楽表現演習 II	S304	1・3	1・2		1	演習	2				2	○		◎	
	音楽実践	S305	3	2		1	演習	2		2			○		◎	
	幼児美術	S306	3	2		2	演習	2	2				◎	◎	◎	
	保育造形	S307	3	2		1	演習	2		2			○		◎	
	幼児体育	S308	1・2・3・4	2		2	演習	2			2		◎	◎	◎	
	保育体育	S309	1・2・3・4	2		1	演習	2				2	○		◎	
	基礎国語	S101	2	2		2	講義	2	2				○	◎	◎	
	児童文化 I	S102	1	1・2		2	講義	2			2		◎		◎	
	社会福祉	S103	4	3	●	2	講義	2	2				○		◎	◎
	保育の心理学	S201	1・2	1		2	講義	2		2			○		◎	
	子ども家庭支援の心理学	S202	1・4	1		2	講義	2			2		○		◎	
	子育て支援	S203	4	3		1	演習	2		2			○		◎	
	子ども家庭福祉	S204	1	3		2	講義	2		2			◎		◎	
	子ども家庭支援論	S205	1・4	3		2	講義	2				2	○		◎	
	保育原理	S104	1・4	1		2	講義	2	2				◎		◎	◎
	保育原理 II	S105	1・4	1		2	講義	2				2	○		◎	
	社会的養護 I	S106	1・4	3		2	講義	2		2			○		◎	
	社会的養護 II	S107	4	1		1	演習	2			2		○		◎	
	保育実習指導 I	S401	1・2・4	1		2	演習	4		4			○		◎	
	保育実習指導 II	S402	1・4	1		1	演習	1			1		○		◎	
	保育実習指導 III	S403	1・2	3		1	演習	1			1		○		◎	
	保育実習 I	S404	1・2・3・4	3		4	実習	12		6	6		○		◎	
	保育実習 II	S405	1・2・3・4	3		2	実習	6			6		○		◎	
	保育実習 III	S406	2・4	3		2	実習	6			6		○		◎	
	子どもの保健	S206	2・4	1		2	講義	2			2		◎		◎	
子どもの食と栄養	S207	1	1		2	演習	2	2				○		◎		
子どもの健康と安全	S208	2・4	1		1	演習	2				2	◎		◎		
乳児保育 I	S209	1	1		2	講義	2	2				○		◎		
乳児保育 II	S210	1	1		1	演習	2		2			○		◎		

分類	科目	科目No.	学習成果との関連	卒業認定・学位授与の方針	実務経験のある教員による授業科目	単位	授業区分	時間	2021年(1年)		2022年(2年)		卒業要件	幼免	保育士	社会福祉士(主任)
									前期	後期	前期	後期				
専門教育科目	特別支援教育「基礎」	S108	2・4	1		2	演習	2			2		○	◎	◎	
	教育カウンセリング	S109	1・2	1		2	講義	2			2		○	◎		
	教育原理	S110	1・4	1		2	講義	2	2				◎	◎	◎	◎
	保育者・教師論	S111	1・2・3・4	1・3		2	講義	2			2		○	◎	◎	
	幼児理解の理論	S112	1・2	1		2	講義	2		2			○	◎	◎	
	保育内容総論	S211	1・2	2		2	演習	2		2			○	◎	◎	
	教育心理学	S113	4	1	●	1	演習	2	2				◎	◎	◎	
	教育財政学	S114	1・4	1		1	講義	1			1		○	◎		
	教育課程論	S115	1	2		2	講義	2		2			○	◎	◎	
	保育内容研究Ⅰ(人間関係)	S310	1・4	1		2	演習	2			2		◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅱ(言葉)	S311	1・2・3	1・2		2	演習	2		2			◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅲ(環境)	S312	1・3	2	●	2	演習	2	2				◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅳ(健康)	S313	1・2・3・4	2		2	演習	2			2		◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅴ(表現)	S314	3	2		2	演習	2			2		◎	◎	◎	
	保育内容指導Ⅰ(健康)	S315	1・2・3・4	2		2	演習	2			2		○	◎	◎	
	保育内容指導Ⅱ(人間関係・言葉・表現)	S316	1	2		2	演習	2			2		○	◎	◎	
	保育内容指導Ⅲ(環境)	S317	1・3	2	●	2	演習	2		2			○	◎	◎	
	教育方法論	S116	1・4	1		2	講義	2		2			○	◎		
	教育実習事前事後指導	S407	1・4	1		1	演習	2	1		1		○	◎		
	教育実習	S408	1・2・3・4	3		3	実習	9			9		○	◎		
こども園・幼稚園体験活動	S409	1・2・3	1		1	実習	3	3				○	◎			
保育・教職実践演習(幼稚園)	S410	1・2・3・4	1・2・3		2	演習	2			2		○	◎	◎		
ピアノ表現法Ⅰ	S318	3	2		1	演習	2	1	1			○				
ピアノ表現法Ⅱ	S319	3	2		1	演習	2			1	1	○				

◎印は卒業及び、幼免・保育士の必修科目です。

卒業するためには、その他に△印の中から12単位以上、○印の中から23単位以上履修すること。保育士の資格を取得する学生は、○印の中から選択必修。

#### ※実習履修について

##### —教育実習(幼稚園本実習)—

教育実習(本実習)は、実習前において開講している学則必修科目および幼稚園教諭二種免許状取得科目に関して未修得がある場合、または修得見込みが立たない場合は教育実習(本実習)を履修することはできない。

実習中止および実習成績「不可」、再実習、実習延長等については、「実習中止・再実習等に関する学科規程」に別途定める。

##### —保育実習(保育園・施設)—

実習前において開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修することはできない。

実習中止および実習成績「不可」、再実習、実習延長等については、「実習中止・再実習等に関する学科規程」に別途定める。

保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実習期間、時間数については、各々概ね10日間80時間以上とする。

こども学科コース選択科目

分類	科目	科目No.	学習成果との関連	卒業認定・学位授与の方針	実務経験のある教員による授業科目	単位	授業区分	時間	コース別	2021年(1年)		2022年(2年)		備考
										前期	後期	前期	後期	
幼児教育	こどもの造形と遊び	S501	1・2・3・4	2		1	演習	2	幼教			2		
	こどもの音楽と遊び	S502	1・2・3	2		1	演習	2	幼教			2		
	こどもの健康と遊び	S503	1・2・3・4	2		1	演習	2	幼教				2	
保育福祉	地域福祉論	S604	4	3		2	講義	2	保福			2		社会福祉主事(任)
	ボランティア活動論	S602	4	3		2	講義	2	保福				2	
	福祉住環境コーディネイターI	S603	4	3		1	演習	2	保福			2		
保育心理	教育カウンセリング心理学	S701	1・2	1		1	演習	2	保心				2	
	セラピー概論	S702	1・2	1		2	講義	2	保心			2		
	保育心理演習	S703	1・2	1		1	演習	2	保心			2		

自由選択科目

※自由選択科目の単位は卒業単位数には算入しない。

分類	科目	科目No.	学習成果との関連	卒業認定・学位授与の方針	実務経験のある教員による授業科目	単位	授業区分	時間	2021年(1年)		2022年(2年)		備考
									前期	後期	前期	後期	
	幼児総合研究	F101	2・3	2		2	演習	4	2			集中	
	国際保育理解	F102	4	2・3		1	演習	2		集中			海外研修
	ウィンタースポーツ	F103	1	3		1	演習	2				集中	

●実務経験のある教員による授業科目の単位合計数 : 7単位

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
人間学 I		教養教育 科目	講義	2	E101		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
福島 重		1	前期	必修	幼	保	社
					◎		
授業概要	人間学とは、「自分と向き合う」学問である。人間の根源的痛みや、現代社会が抱える問題を深く考えることは、そこに生活する「自分自身」をみていくことに繋がっていく。この授業では、その「自分とは何か」を探るための道標として仏教を用い、それをもとに洞察力・考察力を養う。						
到達目標	自分自身を見つめることができる洞察力・考察力を身に着けることを目標とする。						
授業の方法	授業は、基本的には板書をもとに進めるが、授業内容によって、あるいは受講生の理解度によって、アクティブラーニング形式を導入する。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	予習は必要ないが、毎回、前回の復習をしてから授業に臨むこと (15分)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	人間にとって恋愛とは？				
2	「人間学」とは何なのか？	10	自我と利他				
3	仏教では「死」をどう受け止めるのか？	11	人間と災害				
4	仏教では「病」をどう受け止めるのか？	12	異文化とは何か？				
5	仏教では「老」をどう受け止めるのか？	13	仏教と社会 ①差別について				
6	仏教では「生」をどう捉えるのか？	14	仏教と社会 ②身近な差別				
7	人間は弱い生き物なのか？	15	人間の真の幸福とは？				
8	仏教における「欲」と社会における「欲」						
教科書・参考文献	特になし						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業時の発問や不定期に行う小テストで、学生の理解度を確認し、不足があればその都度、詳説する。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	成績は、小テスト(40%)、期末テスト(60%)の絶対評価を基本とする。それに加えて授業目標への到達度を判断した上で単位を認定する。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
人間学Ⅱ		教養教育 科目	講義	2	E102		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
福島重		1	後期	選択	幼	保	社
						○	
授業概要	私たちは、これまで生きてきたなかで、気付かぬうちに様々な「文化」に触れてきた。なかには潜在的に持ち合わせているにも関わらず、私たち自身が気づいていない「文化」もある。本講座は、そのような「潜在的な文化認識」に焦点を当て、その淵源をたずね、考察していくことを通じて、自分が知らない「様々な文化によって構築されている自分自身」を知ることを目指す。						
到達目標	本講座では、様々な文化に触れることを通じて、「文化への理解」を深めることを大きな目標とする。						
授業の方法	授業は、基本的には板書をもとに進めるが、授業内容によって、あるいは受講生の理解度によって、アクティブラーニング形式を導入する。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	予習は必要ないが、毎回、前回の復習をしてから授業に臨むこと(20分)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	近代文学のなかの日本文化①				
2	文化とはなにか?	10	絵本のなかの日本文化②				
3	宗教と潜在的意識	11	近代文学のなかの日本文化②				
4	遊びのなかの文化①	12	生活のなかの日本文化				
5	遊びのなかの文化②	13	外国文化と日本文化①				
6	遊びのなかの文化③	14	外国文化と日本文化②				
7	遊びのなかの文化	15	いかにして文化を伝えるか?				
8	絵本のなかの日本文化①						
教科書・参考文献	特になし						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業時の発問や不定期に行う小テストで、学生の理解度を確認し、不足があればその都度、詳説する。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	小テスト(40%)、期末テスト(60%)の絶対評価。それに加えて授業目標への到達度を判断した上で単位を認定する。(再試験はありません)						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
こころの科学		教養教育 科目	講義	2	E103		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
阿部千春		1	前期	選択	幼	保	社
					◎		
授業概要	本講義では、人の心のしくみを科学的に理解しようとする態度を養い、自己理解や子どもの理解と対応、保育・幼児教育にも関連づけて考えていくことを目的とします。						
到達目標	人の心のしくみや子どもの理解と対応について基本的な知識を習得することをめざします。						
授業の方法	講義資料を用い、講義形式で行います。また、グループワークなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習を行います。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業後は、講義資料を読んで復習し、学習した内容の要点をノートにまとめます。(40分程度)						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	集団の心理学とリーダーシップ理論				
2	科学としての心理学	10	感覚と知覚のメカニズム				
3	心理療法とカウンセリング	11	感情の心理学				
4	生涯発達心理学① 乳幼児期～児童期	12	動機づけの心理学				
5	生涯発達心理学② 思春期～老年期	13	学習理論①				
6	パーソナリティ心理学	14	学習理論②				
7	対人関係の心理学①	15	講義総括				
8	対人関係の心理学②						
教科書・参考文献	教科書：なし・資料配付 参考文献：藤本忠明他編著「ワークショップ大学生活の心理学」ナカニシヤ出版						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	テスト解説を行うことで、誤答問題の見直しができるようにします。また、具体的な学習方法について提示します。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」に該当する科目です。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	成績評価は、授業内試験(80%)、授業後に提出する感想カード(20%)によって総合的に評価し、単位認定を行います。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
日本国憲法		教養教育 科 目	講 義	2	E104		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
伊 藤 泰		1	前 期	選 択	幼 ◎	保 ○	社 ○
授業概要	日本国憲法の学習領域中、主として人権分野について学ぶ。人権の歴史的展開をふまえて、個別の人権規定を中心に基本的な学説や判例を検討する。						
到達目標	本講義では、日本国憲法の内容について知り、特に人権についての知識を深めることを目的として、具体的な事例を交えつつ授業を行う。						
授業の方法	講義形式で行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	予習については、参考書等で次回の授業内容に関することがらを調べておくことが望ましい(30分)。復習については、受けた授業でとったノートの内容を振り返っておくことが望ましい(30分)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	表現の自由				
2	立憲主義と法の支配	10	経済的自由権				
3	国民主権の意味	11	社会権				
4	基本的人権という観念の特質	12	三権分立				
5	基本的人権の限界はどこにあるか?	13	議院内閣制				
6	幸福追求権	14	司法審査制				
7	法の下での平等	15	戦争と平和主義の理念				
8	内心の自由						
教科書・参考文献	なし						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	理解度を確認したうえで、定期的に解説を行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学卒業認定・位授与の方針「1」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	期末定期試験のみの結果に基づき成績評価を行う。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
情報処理演習		教養教育 科目	演習	2	E107		
		年次	開講期	卒業要件	資格		
渋田昌士		1	前期	選択	幼 ◎	保 ○	社 ○
授業概要	Microsoft Word, Excel, PowerPoint を使った演習です。その他パソコン(Windows)の基本操作, メールや情報リテラシーなどを学習します。						
到達目標	幼児教育者として必要な情報処理技能の習得。Word を使って見やすい文書さくせいができること。Excel を使ってデータ整理ができること。PowerPoint を使って発表ができること。メールの送受信ができること。						
授業の方法	毎回課題を出しそれに則した説明をしていきます。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	事前練習(45分) 事後練習(90分)						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	Excel の基本操作①				
2	Windows の基本操作	10	Excel の基本操作②				
3	電子メールの設定と送受信	11	PowerPoint の基本操作①				
4	Word の基本操作①	12	PowerPoint の基本操作②				
5	Word の基本操作②	13	課題作成 ③				
6	課題作成 ①	14	課題発表 ①				
7	Word の応用操作	15	課題発表 ②				
8	課題作成 ②						
教科書・参考文献							
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	各回授業時に前回の振り返りを行う。課題に関しては合格ラインまで繰り返しの指導を取る。課題発表ではその場での指導を行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「4」に該当する科目です。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	通常点(2, 3, 4, 5, 7, 9, 10, 11, 12 回×5%)	45%					
	課題①② (20%+20%)	40%					
	課題③および課題発表	15%					
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
英 語		教養教育 科目	演 習	2	E201		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
則 末 久 代		1	後 期	選 択	幼	保	社
					◎		
授業概要	社会のグローバル化に伴い多様な文化的背景を持つ子どもたちや保護者と関わる場面が増えている。また、小学校での英語教育必修化により早期英語教育への関心が高まり、保育・教育の現場で英語を話す必要性が求められている。本単元では異文化知識を深めながら保育に必要な英語表現を学習する						
到達目標	1. 保育・教育現場で活用される基本的な英語コミュニケーション能力を身に付けることができる。 2. 英語表現を用いたコミュニケーションを楽しむことができる。 3. 英語コミュニケーションを通じて異文化理解が広がり、継続して学ぶ意欲が持てる。						
授業の方法	教科書とCDを使用し保育・教育の現場に必要な英語の語句、発音を学習していく。子どもたちの好きな英語の歌やお話し、日常生活に必要な英語表現をプリントで学習し異文化理解を深めていく。 最終日は保育の現場を想定し、学習してきた歌や物語を英語でグループ発表する。また、発表までのグループワークの過程も授業であるためグループ・ダイナミックスを最大限に発揮すること。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	・予習：上記授業計画に基づき、教科書の次回学習ページおよび課題に対し準備する（1時間程度） ・復習：授業終了時に出された指示に基づき復習する（1時間程度）						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション / 英語による自己紹介	9	Unit8:食事に関する表現 / 英語でレシピを言おう!				
2	Unit1: 園舎に関する表現 Yes-No Questions / Rayming Word～韻を踏む	10	Unit9:排泄に関する表現 / 外国のお話しを読む②				
3	Unit2: 子どもの家族紹介 W/H Questions / 日本のお話しを読む①	11	Unit10: 喧嘩をしている子どもへの言葉がけ 身体的部位に関する表現 / 英語の歌を歌おう♪②				
4	Unit3:時間と数字の表現 / 日本のお話しを読む②	12	Unit11:けが・病気に関する表現 救急処置に関する単語 / グループワーク準備①				
5	Unit4:道順を示す表現 / 道案内をやってみよう!	13	Unit11:けが・病気に関する表現 / グループワーク準備②				
6	Unit5:園庭の道具や子どもの遊びの表現 What do you want to do? / 外国のお話しを読む①	14	講義の振り返り				
7	Unit6:登園・降園時の会話 / 英語の歌を歌おう♪①	15	グループ発表				
8	Unit7:保育士の仕事 / 英語で折り紙を折ろう!						
教科書・参考文献	保育の英会話 Childcare English 赤松直子・久富陽子著 萌文書林 英和辞典・和英辞典						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	試験終了後、重要ポイントのフィードバックを行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「2」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	3分の2以上の出席を前提として、筆記試験を行う。 筆記試験(80%)、授業に対する取り組みの姿勢・課題の達成度(20%) 合計の60%で合格とする						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
英会話		教養教育 科目	演習	2	E202		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
STEEN ROBERT JAMES		1	前期	選択	幼 ◎	保 ○	社 ○
授業概要	保育の現場もグローバル化が進み、子どもとのかかわりの中での日常的な会話をスムーズにできるように、いろいろな場面对応を想定し授業を行う。 文法は勉強しなくてかまわない。 保育の現場で役立つフレーズを覚え英語で思ったことを話せるようになるための秘訣の暗記授業を行う。						
到達目標	保育現場での子どもたちの生活に対応できる簡単な日常的な英語で話すことに慣れ、会話を楽しめ、子どもたちの不安や会話のストレスを軽減できる保育士になる。						
授業の方法	実用的なフレーズを勉強、暗記。自分のことを伝える文も暗記。 授業は毎回アクティブラーニングを中心として行う						
予習・復習等 及び必要時間(分)	毎回、配布資料とノートを30分程度予習し、毎回授業時に持ってくること。 復習は必ず30分程度行うこと。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス 仕事や勉強する私	9	困っている、情けない、				
2	礼儀やあいさつをする	10	知りたがり、相槌を打つ、受け答えをする				
3	友達に思いを伝える	11	ベラベラ more フレーズー1				
4	自分の感情を相手に伝える	12	ベラベラ more フレーズー2				
5	忠告する、励ます	13	ベラベラ more フレーズー3				
6	提案する、お願いする	14	ベラベラ more フレーズー4				
7	怒る、イライラする	15	ベラベラ more フレーズー5/6 全体の復習と重要ポイント確認				
8	思いを伝える 復習と小テスト						
教科書・参考文献							
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	小テストにおいて確認し、解答と解説により理解を深める。 グループディスカッションなどで、各個人に応じたアドバイスを行うと同時に、小テストにおいても振り返りを実施し、今後の学習に反映させる。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「2」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内テスト80% (40%×テスト2回) 暗記発表テスト20%						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
健康科学論		教養教育 科目	講義	1	E301		
		年次	開講期	卒業要件	資格		
池田 隼		1	前期	選択	幼 ◎	保 ◎	社
授業概要	本講義では、健康の維持増進を図るために、健康の概念や健康に影響を与える生活習慣、環境要因などについて学び、自身の生活習慣を見直し、生涯にわたり健康に過ごすための知識を学ぶ。						
到達目標	健康の維持増進を図るために、健康の概念や健康に影響を与える生活習慣について理解を深め、生活習慣を見直し、生涯にわたり健康に過ごすための力を身に付けるための知識を付け、さらにその知識を活用するための実践的な方法を理解することを目的とする。						
授業の方法	講義形式で講義を行い、単元ごとに資料を配布し学びを深める。また、毎時間グループディスカッション及び発表を実施する他、レポートを提出し、理解度を確認しながら進めていく。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	事前に与えられた課題について各回1時間程度の予習が必要である。また、授業内テストについては、それまでの講義内容の復習が1時間以上必要となる。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション	9	メンタルヘルスと健康				
2	健康の概念	10	する・見る・支える				
3	生活習慣病	11	コーチングの理論と実践①				
4	運動と健康	12	コーチングの理論と実践②				
5	身体のしくみ	13	チームビルディング				
6	トレーニングの理論と実践①	14	女性とスポーツ				
7	トレーニングの理論と実践②	15	運動プログラムの作成(まとめ)				
8	栄養と健康						
教科書・参考文献	資料を配布						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	単元毎にレポートを実施し、授業内で解答と解説を行い、理解度を確認する。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内テスト(40%) (授業内テスト2回(20点×2)の受験を必須とする)、提出されたレポート等の課題評価(20%)、定期試験(40%)を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
健康とスポーツ		教養教育 科 目	実 習	1	E302		
		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
池 田 隼		1	前 期	選 択	幼 ◎	保 ◎	社
授業概要	運動を通しスポーツへの理解を深め、心身ともに健康で活発的な身体づくりを行い、生涯にわたり積極的に運動に関わる資質を高める。						
到達目標	運動への意欲を高め、生涯にわたり積極的に運動に関わる資質を高めることを目的として演習を行う。						
授業の方法	実技形式で行う。また、バレーボールやフットサル、バスケットボールといった球技スポーツの特性を踏まえグループを形成し演習を進める。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	各種目におけるルール理解のための各回1時間程度の予習が必要である。また、レポートのための復習が1時間程度必要になる。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション	9	フットサル (レポート提出)				
2	レクリエーション	10	フットサル (実技テスト)				
3	レクリエーション	11	バスケットボール				
4	バレーボール	12	バスケットボール (レポート提出)				
5	バレーボール (レポート提出)	13	バスケットボール				
6	バレーボール	14	バスケットボール (実技テスト)				
7	バレーボール (実技テスト)	15	まとめ (レポート提出)				
8	フットサル						
教科書・参考文献	資料を配布						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	4回のレポート提出を実施し、授業内で解答と解説を行い、理解度を確認する。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内実技テスト (60%)、提出されたレポート等の課題評価 (40%) を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
総合教養演習		教養教育 科目	演習	1	E401		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
こども学科担当教員		1.2年次	通年	選択	幼	保	社
授業概要	社会人としての基礎力を身につけるためには、総合的な一般教養に磨きをかけることが求められます。建学の精神の下、保育者としてのライフスタイルを形成するための基礎知識を学びながら、実践的に活用できる力を養います。						
到達目標	多様な職業観を養い個々の資質の向上を目指すとともに、保育者としてあるべき教養を深めることで基本的なふるまいができことを目的とします。						
授業の方法	オムニバス形式で実施。卒業までの2年間で学ぶこととし、講義の実施日程等については順不同で実施することとし、その都度連絡をする。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	予習として、日頃から新聞を読み現代社会の状況に関心をもつ(30分)。 講義配布資料等の見直しで復習する(15分)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション	9	キャリア形成Ⅰ(求人票)				
2	別院参拝(東本願寺函館別院)	10	キャリア形成Ⅱ(エントリー)				
3	基礎教養Ⅰ(学科特別講座)	11	キャリア形成Ⅲ(業界研究)				
4	基礎教養Ⅱ(建学の精神)	12	キャリア形成Ⅳ(業界研究)				
5	基礎教養Ⅲ(お釈迦様の教え)	13	キャリア形成Ⅴ(履歴書)				
6	基礎教養Ⅳ(親鸞の教え)	14	キャリア形成Ⅳ(内定の意味と規定)				
7	危機管理研修Ⅰ(賢い消費者)	15	総括				
8	危機管理研修Ⅱ(薬物乱用防止)						
教科書・参考文献	ありません。授業内で適宜配布、紹介。						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内で実施する小テストや課題は随時フィードバック。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与 の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び 基準	授業内の提出課題を100%評価の原則とします。						
実務経験と担当科目 内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
幼児音楽		専門教育科目	演習	2	S301		
		年次	開講期	卒業要件	資格		
江端深雪		1	前期	必修	幼	保	社
					◎	◎	
授業概要	保育者として必要な音楽基礎能力の育成を目的とし、ピアノ演奏技術習得を含めた総合的な音楽能力の伸長を図る。						
到達目標	保育現場で必要な基礎音楽力を習得したうえで、音楽分野における保育の内容・方法を理解し、子どもと共に豊かで創造的な音楽活動を展開できる。						
授業の方法	教科書とプリントを使用し、保育に必要な音楽基礎理論を学習すると同時に、毎時間後半はMLを使用してピアノ演奏法の習得を目指し、演習形式で授業を実施する。						
予習・復習等及び必要時間(分)	配布された理論プリント課題を完了させる。 ピアノ演奏に関しては個人練習に因るところが非常に大きいため、毎日最低30分～1時間以上の反復練習が必要。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	グループでアンサンブルを楽しむ①				
2	五線と音の名前	10	和音記号 コードネーム基礎				
3	音符と休符 拍子	11	伴奏型の応用				
4	弾くこと 楽譜を読むこと	12	グループでアンサンブルを楽しむ②				
5	＃・♭と和音 調について	13	理論小テスト				
6	ハ長調の理解(伴奏法)	14	MLによるピアノ演奏学習				
7	ハ長調例題曲の学習	15	ピアノ・弾き歌い小テスト②				
8	ピアノ課題曲小テスト①						
教科書・参考文献	楽譜が読める・弾けるステップ20(音楽之友社)						
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	理論に関しては、毎時間のプリント課題を含め正誤の確認をし、理解を深める。 ピアノ演奏については、ML学習時に個々に助言を行うと同時に、小テストにおいても振り返りを実施し、今後の自己練習に反映させる。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「3」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	ピアノ・弾き歌い小テスト合格が必須条件(60%) 提示課題、その他小テストなど(40%) ※ピアノ・弾き歌い小テストの合格条件については、授業内で詳細に説明する。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育音楽		専門教育 科目	演習	1	S302		
		年次	開講期	卒業要件	資格		
江端深雪		1	後期	選択	幼	保	社
					◎		
授業概要	「幼児音楽」のサブ科目として位置付け、保育者に必要な理論を含めた基礎音楽力の向上を目指すと同時に、グループワークにより音楽の楽しさをより体感できる学習の場を設定する。						
到達目標	ピアノ演奏技術の向上、基礎理論の習得に加え、さらに多岐にわたる応用的な保育音楽を学習することにより、子どもの感性を育むことのできる表現力豊かな保育者となる。						
授業の方法	プリント、教科書を使用し、「幼児音楽」から引き続き基礎理論を学ぶと同時に、グループワークを中心とした「弾く」「作る」「演奏する」実践的な授業へと展開する。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	課題完成のための自己学習が必須。 ピアノ演奏に関しては個人練習に因るところが非常に大きいため、毎日最低30分～1時間以上の 反復練習が必要。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	MLでアンサンブルを楽しむ				
2	へ長調の理解(伴奏法)	10	短調の理解				
3	へ長調例題曲の学習	11	理論小テスト				
4	ト長調の理解(伴奏法)	12	ミュージックベルを楽しむ①				
5	ト長調例題曲の学習	13	ミュージックベルを楽しむ②				
6	ピアノ課題曲小テスト	14	グループ発表 振り返り				
7	手作り楽器の作成	15	ピアノ・弾き歌い小テスト				
8	手作り楽器によるアンサンブル						
教科書・参考文献	楽譜が読める・弾けるステップ20(音楽之友社)						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	ピアノ演奏においては個別に確認し、練習方法を含め習熟度に応じた指導を行う。 グループワークにおいては、振り返りと同時に応用方法などを提示し、実際に保育現場を想定した 展開を自ら考える契機とする。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「3」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及 び基準	ピアノ・弾き歌い小テスト合格が必須条件(60%) 提示課題、その他小テストなど(40%) ※ピアノ・弾き歌い小テストの合格条件については、授業内で詳細に説明する。						
実務経験と担当科 目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
音楽実践		専門教育 科目	演習	1	S305		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
こども学科担当教員		1	後期	選択	幼	保	社
					◎		
授業概要	本講義は、幼児音楽の知識を深める共に、教職への適性を検討する。						
到達目標	教職への意識を高める事の目的と音楽表現力の体得						
授業の方法	教科書を用い、学生も自ら意欲的に授業を進めていく。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	教科書の内容は学生自ら復習(30分程度)が必要(グループで曲を振り分ける)						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス 発声に関する理論 9月のうたより(ゆうやけこやけ 他)	9	2月・3月のうたより (豆まき・あられ・どこかで春が 他)				
2	発声に関する理論 9月のうたより(まつぼっくり) 10月のうたより(どんぐり 他)	10	3月・4月のうたより (ひなまつり・1年生になったら 他)				
3	発声に関する理論 10月11月のうたより (こうもりのうた 他)	11	4月・5月のうたより(おはようのうた・おかえりのうた・ チューリップ 他)				
4	11月のうたより(まっかな秋 他)	12	5月・6月のうたより(せいくらべ・ぞうさん・はみが きしましよ 他)				
5	12月のうたより(ゆきのこぼうず 他)	13	6月・7月のうたより (お星さま・たなばたさま・トマト 他)				
6	12月のうたより (あわてんぼうのサンタクロース 他)	14	イタリアの歌曲より(ニーナ)7月・8月のうたより (アイアイ・うみ 他)				
7	1月のうたより (お正月・雪のペンキ屋さん 他)	15	イタリアの歌曲より(ニーナ)8月のうたより (はなび・手のひらを太陽に 他)				
8	1月・2月のうたより (やぎさんゆうびん・おへそのうた 他)						
教科書・参考文献	たのしく遊べるこどものうた						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内の小テストによる個々の確認をしグループワークにて自己の曲に対する音楽表現が理解できているのか確認する。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「3」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	定期試験 100% 60%以上で合格						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
幼児美術		専門教育 科目	演習	2	S306		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
神林 眞里		1	前期	必修	幼 ◎	保 ◎	社
授業概要	本授業では、子どもの遊びを豊かにし表現活動へのよき援助者、誘導者、理解者となるよう、造形表現の基礎的知識と技術を体得する。子ども達の心を共感し、豊かな表現活動へと導くことができるよう、実技体験を通し自らの感性と表現力を向上させる。						
到達目標	○造形表現の基礎的知識と技法を子どものあそびを想定実践しながら習得する。 ○モダンテクニックを実践し表現の楽しさを味わい、自由な発想と創造力を育む。						
授業の方法	前半は教科書やプリントなどを用いながら造形の基礎知識を講義形式で行い、6講以降は表現の楽しさを知り表現力向上にむけて実技体験を行なう。また、幼児造形の視点から発達段階を理解し、年齢にあわせた指導のあり方を考える。毎時間の学びや制作のためのアイデアスケッチなど自分なりのデザインでポートフォリオを作成する。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	ポートフォリオを作成し、毎時間振り返りと復習を行うこと。(20分程度) 課題作品については、事前準備と創意工夫のための構想(30分程度)の予習時間が必要。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	技法遊び③				
2	ポートフォリオ作成方法	10	技法遊び④				
3	人間と造形活動・造形あそびの意義	11	技法遊び⑤				
4	乳幼児造形表現の発達段階と特徴	12	形と構成				
5	遊びと造形活動	13	色彩				
6	素材と道具	14	デザイン				
7	技法遊び①	15	総括と振り返り				
8	技法遊び②						
教科書・参考文献	「子どもの造形表現」(開成出版) 保育をひらく造形表現(萌文書林) 他						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	毎時間学びの内容と振り返りを記入し提出されたポートフォリオと全講義終了時に記録した自己評価でフィードバックを行う。造形表現の基礎知識について筆記試験を行い、未修得の内容について振り返りを行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「3」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	提出作品(60%)、筆記試験(30%)、ポートフォリオ(10%)を総合して評価する。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育造形		専門教育 科目	演習	1	S307		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
神林 眞里		1	後期	選択	幼	保	社
					◎		
授業概要	本授業では、子ども達のがのびのびと自己を表現し感性豊かに成長できるような表現活動の展開を目指した支援方法を習得する。保育士自身表現者であり、子ども達と共感することで楽しい表現へと導けることから、保育士を目指す学生自身が実技体験を通して感性を磨き、造形表現の楽しさや自由な発想を体感する。						
到達目標	○美術の基礎的知識や技術を基に、子ども達の遊びを共感し活動豊かになるよう支援の方法を習得する。○素材研究をする中で、道具の扱いや安全性、応用力を理解し、環境の提供ができるようにする。						
授業の方法	造形の基礎理解のための講義と、子どもたちの遊びに実践できる造形教材制作などの実技体験を行なう。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	課題制作について、創意工夫のため準備や構想に30分程度の予習、完成にむけて継続的制作時間と30分程度のポートフォリオによる振り返り時間が必要。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス、ポートフォリオの作成	9	手作りおもちゃの意義				
2	環境構成と道具の研究	10	手作り教材制作				
3	名札製作	11	手作り教材制作				
4	名札製作	12	手作り教材制作				
5	誕生表制作	13	手作り教材制作				
6	誕生表制作	14	手作り教材制作				
7	子どもの遊びと文化	15	手作り教材実践方法と振り返り				
8	絵本の意義と種類						
教科書・参考文献	幼児造形の基礎（萌文書林） 「子どもの造形表現」（開成出版） 他						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	制作した名札やおもちゃ、教材に関しては、実際に保育現場や実習先で使用実践し、おもちゃや教材が想定した子ども達の活動に繋がったのか、自己評価をして振り返る。取り組みについて作成したポートフォリオとレポートでフィードバックを行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「3」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	保育者を目指す者として意欲的な態度で作品制作を行っていたのか、また子ども達の遊びを予測し創意工夫がされたものであるか、制作した作品とポートフォリオ、自己評価を総合的に判断する。 (提出作品 70%, ポートフォリオ 20%, 自己評価 10%)						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
基礎国語		専門教育 科目	講義	2	S101		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
福島 憲成 ・ 西川 司		1	前期	選択	幼 ◎	保 ◎	社
授業概要	本講義では、国語の基礎の「書く」「読む」「話す」を学ぶと共に、コミュニケーション能力を身につけことを主題として授業を行う。						
到達目標	コミュニケーション能力の高い教職への意欲を目的とする。						
授業の方法	講義中心とするが、講義時間内に例題を出し、その場で文章を書かせることを主にする。また、グループワーク。討論形式。ビデオ鑑賞。絵本・童話の読み聞かせを行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	事後にレポートにまとめ、自分がどこまで理解したかを確認する作業を繰り返すことが大切。講義内の例題(だいたい三問)に対して出した自分の答えを家で繰り返して書き、応用する力を備えるため、復習におよそ15~20分必要。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	対話力を身につける(2)				
2	文章の書き方(1)	10	絵本・童話の読み聞かせ(1)				
3	文章の書き方(2)	11	絵本・童話の読み聞かせ(2)				
4	「起承転結」「序・破・急」を身につける(1)	12	創作童話に挑戦				
5	「起承転結」「序・破・急」を身につける(2)	13	入社試験に必要な小論文を書く				
6	文章による自己アピールの仕方	14	入社を想定した模擬面接の実践				
7	会話による自己アピールの仕方	15	講義総括				
8	対話力を身につける(1)						
教科書・参考文献	向日葵のかっちゃん						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業をすべて終え、参考文献に対する感想を書いてもらい、文章の構成・語彙・狙い・言葉遣い等々が身につけているかを検証し、添削したものを生徒にフィードバックすることで国語力のさらなる向上を目指す。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「2」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	講義中に出す例題の正解率、レポート等を総合的に評価する。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
社会福祉		専門教育科目	講義	2	S103		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
渡谷能孝		1	前期	選択	幼	保	社
					◎	◎	
授業概要	日本の社会福祉の歴史や法制度、実施体制について学習し、保育者に必要とされる情報や現状の課題などを考え、子ども家庭支援の視点について幅広く理解していきます。						
到達目標	社会福祉の意義と歴史、サービスの概要と重要性について学び、学生一人ひとりが社会福祉に関する制度や知識についての理解を深め、保育者として資質向上を図り、子ども家庭支援者の視点について理解することをねらいとする。						
授業の方法	テキストとスライドを用いた講義形式で授業を行う。必要に応じて、保育にかかわる福祉課題などをテーマに、グループディスカッションを通して考える。						
予習・復習等及び必要時間(分)	予習として、次回講義ページの教科書を読んでおく(20分程度)。 スライド表示したものや配布したプリントを再確認して復習(20分程度)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	児童福祉①(子どもと子育て家庭への支援)				
2	保育と社会福祉	10	児童福祉②(児童福祉施設)				
3	社会福祉と保育の道すじ	11	障害のある人の福祉				
4	社会福祉の意味と考え方	12	高齢者福祉と少子化				
5	社会福祉の実施体制と財源	13	地域福祉				
6	社会保障制度①(年金保険)	14	子どもと家族の福祉課題(グループディスカッション)				
7	社会保障制度②(医療保険)	15	社会福祉における相談援助				
8	社会保障制度③(生活保護)						
教科書・参考文献	教科書：九訂 保育者を目指す人の社会福祉(みらい)						
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	授業内試験の実施後に返却して解答、解説を行うことで、各々の理解度を再確認する。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果の「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内筆記試験(100%)を原則とし、グループディスカッション(積極性、論理的思考、他者への配慮)の実施状況から、授業の到達目標の達成度合いを含めて総合的に判断して評価します。						
実務経験と担当科目内容との関連	第一種社会福祉事業における実務経験を基に、幅広い視点から授業を展開していく。						

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育の心理学		専門教育 科目	講義	2	S201		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
阿部千春		1	後期	選択	幼	保	社
						◎	
授業概要	乳幼児期における大人や仲間との相互関係、多様な経験、指導・援助のあり方、環境の構成の意義について理解を深めることを目的とします。						
到達目標	子どもの発達に関わる心理学や子どもの学びの過程、特性についての基礎的な知識を習得することをめざします。						
授業の方法	講義資料を用い、講義形式で行います。また、グループワークなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習を行います。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んで予習してください。(30分程度) 授業後は、教科書と講義資料を読んで復習し、学習した内容の要点をノートにまとめます。(30分程度)						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	愛着の形成と親子関係②				
2	子どもの発達の理解	10	社会性と友達関係の発達				
3	発達理論と子ども観・保育観	11	乳幼児期の学びの過程と特性－遊びの発達－				
4	身体的機能と運動機能の発達	12	自己概念の発達				
5	認知の発達	13	道徳性の発達と向社会的行動				
6	乳幼児期の学びに関わる理論－感情と動機づけの発達－	14	乳幼児期の学びを促す援助のあり方				
7	言語とコミュニケーションの発達	15	講義総括				
8	愛着の形成と親子関係①						
教科書・参考文献	教科書：櫻井茂男・大内晶子著「たのしく学べる乳幼児のこころと発達」福村出版 参考文献：川島一夫他編著「図で理解する発達心理学」福村出版						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	テスト解説を行うことで、誤答問題の見直しができるようにします。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」に該当する科目です。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	成績評価は、授業内試験(70%)、ファイル提出(20%)、授業後に提出する感想カード(10%)によって総合的に評価し、単位認定を行います。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
子育て支援		専門教育 科目	演習	1	S203		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
渡谷能孝		1	後期	選択	幼	保	社
					◎		
授業概要	子育て世帯の現状から見える課題を通じ、保護者とのかかわりを基本とした信頼関係の構形成基に、保護者支援に関する特性と具体的な展開方法を理解する。						
到達目標	保育士の専門性である保護者に対する相談、助言の知識や技術を理解し、子育て家庭を取り巻く状況をとらえた上で、その家庭環境に合わせた支援の在り方について考え、保護者に対する相談、助言の具体的に展開することができる。						
授業の方法	テキスト、スライド、プリントを用いて講義、演習を実施し、子育て支援についての理解を深める。子育て支援の課題解決に向けたグループワークを実施する。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	講義終了時に、次回の講義に向けた予習課題を出します(30分程度)。 授業において配布した資料を再確認する(15分程度)						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション・子育て支援とは	9	子育て支援の展開②(計画)				
2	子育て支援を取り巻く状況の変化	10	子育て支援の展開③(グループワーク)				
3	保育士の行う子育て支援体制	11	地域子育て家庭への支援				
4	子どもの保育を通じた保護者支援	12	障がいのある子どもを抱えた家庭への子育て支援				
5	保育相談支援者としての保護者理解と信頼関係	13	特別な配慮を要する子どもへの支援				
6	子育て支援の基本①	14	多様なニーズをかかえる家庭への子育て支援				
7	子育て支援の基本②	15	講義内容の振り返り				
8	子育て支援の展開①(状況把握)						
教科書・参考文献	教科書：子育て支援(中山書店)						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内試験の実施後に返却して解答、解説を行うことで、各々の理解度を再確認する。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果の「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内筆記試験(100%)を原則とし、グループディスカッション(積極性、論理的思考、他者への配慮)の実施状況から、授業の到達目標の達成度合いを含めて総合的に判断して評価します。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
子ども家庭福祉		専門教育 科目	講義	2	S204		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
大島文輝		1	後期	必修	幼	保	社
					◎		
授業概要	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷等を学び、子どもの人権擁護、制度、実施体系等について理解をする。この理解を踏まえ、子ども家庭福祉の動向と展望について考察する。						
到達目標	1、子どもの権利への理解をする。 2、子ども家庭福祉の実施体系を理解する。 3、子どもを取り巻く現状や課題を理解する。						
授業の方法	テキストとスライドを用いた講義形式で授業を行う。子供を取り巻く諸問題などについてグループディスカッションを通して考える。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	予習として、次回講義の教科書のページを読んでおく。(20分程度) スライド表示したものや配布したプリントを再確認して復習をする。(20分程度)						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	保育サービス				
2	現代の子ども家庭福祉	10	障害児の福祉				
3	子どもの権利	11	子どもを取り巻く諸問題(グループディスカッション)				
4	子ども家庭福祉の成り立ち	12	子育て支援と健全育成(グループディスカッション)				
5	子ども家庭福祉の法	13	子ども家庭福祉の専門職と専門技術				
6	子ども家庭福祉の行政・実施機関	14	講義内容の振り返り①				
7	子ども家庭福祉の施設	15	講義内容の振り返り②				
8	社会的養護						
教科書・参考文献	教科書：「新版 保育士をめざす人の子ども家庭福祉」(みらい)						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内試験の実施後に返却し解答、解説を行うことで、各々の理解度を再確認する。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内筆記試験(100%)を原則とし、グループディスカッション(積極性、論理的思考、他者への配慮)の実施状況から、授業の到達目標の達成度合いを含めて総合的に判断して評価し、単位認定を行う。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育原理		専門教育科目	講義	2	S104		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
小林 恵理子		1	前期	必修	幼	保	社
					◎	◎	
授業概要	保育とは何か、保育を取り巻く制度や環境、世界や日本の保育の歴史など、保育者になるための基本的な事項について理解を深めることが目的である。具体的には、保育の意義及び目的、幼稚園教育要領や保育所保育指針における保育の基本、保育の内容と方法などについて考える。						
到達目標	1. 保育の意義と目的を説明できる。 2. 保育所保育指針に示されている保育の基本を説明できる。 3. 保育計画にかかわる保育目標や内容、方法を考察し説明できる。						
授業の方法	主に配布プリントやビデオ・資料等を用いて講義形式で行う。授業内テストを受験することが単位認定の必須条件。						
予習・復習等及び必要時間(分)	毎回、予習に相当する課題を示し、考えてもらう(30分程度)。復習は、講義中に筆記したノートを読み返して、重要な点をチェックできるような課題を提示する(30分程度)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション:保育とは	9	保育方法				
2	保育制度1:幼稚園とは	10	保育計画と評価				
3	保育制度2:保育所とは	11	子育て支援と地域連携				
4	新しい保育制度:子ども・子育て支援新制度	12	世界の保育の歴史				
5	幼稚園教育の基本	13	日本の保育の歴史				
6	保育所保育の基本	14	グループディスカッション				
7	子どもの発達の理解と保育	15	保育の現状と課題				
8	保育内容						
教科書・参考文献	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」(いずれもフレーベル館)						
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	定期試験後に再試験対象者にのみ、課題(試験やレポート等)を返却する。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	定期試験とレポートで総合的に評価する。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
社会的養護 I		専門教育 科目	講義	2	S106		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
長谷山 哲平		1	後期	選択	幼	保	社
					◎		
授業概要	社会的養護を支える理念の理解、日本そして世界における社会的養護の現状と課題、望ましい社会的養護の実現に向けた法および政策の理解。						
到達目標	本講義では、社会的養護の求められる背景や歴史、理念を理解する。その上で、社会的養護の体系や実施現場、支援の実際を理解する。また、社会的養護で求められる保育者の専門性を理解する。						
授業の方法	講義形式で行う。また適宜教科書を参照しながらすすめる。筆記試験の受験が単位認定の必須条件となる。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	各回の受講後には、講義内容を復習(30分程度)し、必要に応じて資料を読み予習をしておく(20分程度)、各種統計資料や関連法の原文等を参照すること。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション	9	貧困対策				
2	社会的養護とは	10	現代保育の諸問題				
3	社会的養護の歴史	11	保育者の専門性				
4	社会的養護の基本原則	12	諸外国における子育て支援				
5	社会的養護の体系、施設養護①	13	世界の子育て				
6	施設養護②	14	講義内容の振り返り①				
7	女性の貧困	15	講義内容の振り返り②				
8	孤独死						
教科書・参考文献	「現代保育論 I」保育方法研究会編（一藝社）						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	試験終了後、押さえるべき重要事項の確認を行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	筆記試験を実施する。なお、60点以上で合格とする。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育実習指導 I (保育所)		専門教育 科目	演習	※	S401		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
藤村 敦		1	後期	選択	幼	保	社
					◎		
授業概要	教科書やプリント、DVD を用いて、保育実習 I の目的や具体的内容、方法、実習生としての心構えを学ぶ。また、実習に必要な基本的な知識に関する学びを深める。						
到達目標	「保育実習 I」の目的が分かり、その具体的内容や方法、実習生としての心構え等を理解する。また、保育実習 I に必要な基本的知識を習得する。						
授業の方法	主に講義形式で行い、教科書（保育指針解説等）、プリント、DVD 等を用いながら、保育への理解を深める学習を行う。保育内容についての理解度を確認するために、小テストを行うとともに、学習した内容を実際の保育場面に当てはめて考えるための演習なども行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業後に配布プリント、教科書（保育指針解説等）を基に、授業内容を振り返り、学んだ内容について、実施の保育実習に当てはめて考えることができるよう復習してください（1時間程度）。また、小テストに向け、授業内容の復習に相当時間必要。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション、保育実習 I の位置付け	9	保育指針、教育・保育要領の理解③				
2	保育所とは	10	保育指針、教育・保育要領の理解④				
3	保育士の倫理	11	保育指針、教育・保育要領の理解⑤、小テスト				
4	保育者に求められる資質	12	保育実習課題				
5	保育ニーズと保育制度、保育の種類	13	保育実習日誌の書き方				
6	保育所の生活と 1 日の流れ	14	実習計画と指導案				
7	保育指針、教育・保育要領の理解①	15	実習直前指導と自己評価に関する説明				
8	保育指針、教育・保育要領の理解②						
教科書・参考文献	保育実習（中央法規）近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子編、保育所保育指針解説（フレーベル館）厚生労働省編、参考文献：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）内閣府・文部科学省・厚生労働省編						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内演習課題については、次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し、振り返りを行うとともに、それについて解説を行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内演習課題（70%）、授業内小テスト（30%）を基にして、総合的に評価を行い、60 点以上で合格とする。 ※単位は保育実習指導 I（施設）と合わせて 2 単位とする。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育実習指導 I (施設)		専門教育 科目	演習	※	S401		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
阿部千春		1	後期	選択	幼	保	社
					◎		
授業概要	本授業では、保育実習の中の「社会福祉施設」実習について、その意義や位置づけを理解するとともに、実習に必要な基本的な知識、技術、態度等を習得します。						
到達目標	既習の科目全体で学んだ理論と実習を関連づけて、自己の課題を明確にすることをめざします。						
授業の方法	教科書と講義資料を用いて講義形式で行います。また、グループワークなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習を行います。10回目に実習施設の施設長による講話を受講します。課題の提出、授業内で行う確認テストの受験が単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業後に配布プリント、教科書を基に、授業内容を振り返り、学んだ内容について、復習をする。資料を読み返す等の授業前に予習をする。(1時間程度) 社会福祉施設実習に関わる準備を行います。実習に備え、体調管理をしっかりと行います。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	障害児(者)関係施設の理解③				
2	社会福祉施設実習の目的と内容	10	施設長による講話				
3	社会福祉施設の基本的理解	11	施設実習事前学習①				
4	社会的養護施設の理解①	12	施設実習事前学習②				
5	社会的養護施設の理解②	13	実習の計画と記録				
6	社会的養護施設の理解③	14	実習課題の設定				
7	障害児(者)関係施設の理解①	15	実習直前指導				
8	障害児(者)関係施設の理解②						
教科書・参考文献	教科書：守巧他著「施設実習パーフェクトガイド」わかば社、全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会編「保育実習ガイドライン(福祉施設実習編)」、参考文献：駒井美智子他著「施設実習ガイド」萌文書林						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	提出した課題について、所見をつけて返却します。また、テスト解説を行うことで、誤答問題の見直しができるようにします。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」に該当する科目です。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	成績評価は、提出されたレポート等の課題(60%)、確認テスト(40%)によって総合的に評価し、単位を認定します。※単位は保育実習指導 I (保育)と合わせて2単位とする。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育実習 I (保育所)		専門教育 科目	実 習	※	S404		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
藤村 敦・池田 隼		1	集 中	選 択	幼	保	社
					◎		
授業概要	保育実習指導 I 及びこれまで学んだ知識・技術を基礎として保育所での活動に参加し、乳幼児に対する理解や保育所の役割、保育士の職務等について学ぶ。						
到達目標	これまでの大学での学びを生かして、積極的に保育所での活動に参加し、乳幼児の発達や保育内容、保育環境、保育士の職務等について実践的に理解する。						
授業の方法	保育所にて 10 日間以上と社会福祉施設にて 10 日間以上、合計 20 日間以上の必修実習となります。実習日誌等の提出は単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	保育実習指導 I を受講し、実習に必要な知識をつけておくとともに、保育実習指導 I で指定された準備を行っておくこと。 毎日の振り返りと記録に 2 時間程度、準備に 1 時間程度。						
履修条件	実習前に開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修できない場合がある。						
授 業 計 画							
1	保育所保育実習	9	保育所保育実習				
2	保育所保育実習	10	保育所保育実習				
3	保育所保育実習	11	保育所保育実習				
4	保育所保育実習	12	保育所保育実習				
5	保育所保育実習	13	保育所保育実習				
6	保育所保育実習	14	保育所保育実習				
7	保育所保育実習	15	保育所保育実習				
8	保育所保育実習						
教科書・参考文献	保育実習(中央法規)近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子編、保育所保育指針解説(フレーベル館)厚生労働省編						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	面談を行い、これまでの実習や日誌の記述内容についての振り返りを行うとともに、今後の課題に関する共通理解を行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	保育所からの評価(70%)、実習日誌(30%)を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。 ※単位は保育実習 I (施設) と合わせて 4 単位とする。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育実習 I (施設)		専門教育 科目	実 習	※	S404		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
阿部 千春・池田 隼		1	集 中	選 択	幼	保	社
					◎		
授業概要	保育実習 I における社会福祉施設での現場実習を踏まえ、より実践的で総合的視点からの施設機能や役割、対象児(者)への理解を深めます。						
到達目標	社会福祉施設での実習を通して、保育士として必要な知識や技術を習得することを目的とします。						
授業の方法	保育所にて 10 日間と社会福祉施設にて 10 日間、合計 20 日間の必修実習となります。実習日誌とレポートの提出は単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	保育実習指導 I を受講し、事前学習として、自分が行く実習施設について詳しく調べ、必要な知識や技術を身につけておきます。 毎日の振り返りと記録に 2 時間程度、準備に 1 時間程度。						
履修条件	実習前に開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修できない場合がある。						
授 業 計 画							
1	福祉施設実習	9	福祉施設実習				
2	福祉施設実習	10	福祉施設実習				
3	福祉施設実習	11	福祉施設実習				
4	福祉施設実習	12	福祉施設実習				
5	福祉施設実習	13	福祉施設実習				
6	福祉施設実習	14	福祉施設実習				
7	福祉施設実習	15	福祉施設実習				
8	福祉施設実習						
教科書・参考文献	教科書：守巧他著「施設実習パーフェクトガイド」わかば社、全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会編「保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）」、参考文献：駒井美智子他著「施設実習ガイド」萌文書林						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	実習施設からの評価表と実習日誌、レポート、自己評価表(ルーブリック評価)を用い、事後指導のための面談を行います。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目です。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「3」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	成績評価は、実習施設からの評価(50%)、実習日誌(30%)、レポート(20%)を基に総合的に評価して、単位を認定します。※単位は保育実習 I (保育)と合わせて 4 単位とする。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
子どもの食と栄養		専門教育 科目	演習	2	S207		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
山田陽子		1	前期	選択	幼	保	社
					◎		
授業概要	子どもの栄養と食生活は生涯にわたる健康な生活の基礎となる。そのことを踏まえてすこやかな心身の発達を助長するために、栄養素の基礎知識からはじめ、食生活はどうあったらよいかを理解する。						
到達目標	保育者として子どもの食生活に関わる要素を学習する。特に近年は子どもに対しての「食育」の観点からも子どもの食事は重要視されている。それらを講義・演習の中に取り入れる。また子どもに限らず、自分自身の健康を振り返る機会とする。						
授業の方法	講義と演習を組み合わせる						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業の予定と終了後に教本の復習60分程度必要						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	オリエンテーションとシラバスの説明	9	離乳食の意義、前期の食事				
2	健康と食生活、栄養の意義	10	離乳期中期、後期の食事作成				
3	子どもの栄養と身体発育	11	幼児期栄養摂取と食事作成				
4	栄養素の働き	12	幼稚園・保育園の食事				
5	消化と吸収の生理	13	食育の意義と教育				
6	食品摂取の基本	14	特殊な病気と食事、アレルギー				
7	子どもの献立作成、演習	15	全体を通してのまとめ				
8	授乳の意義と母乳とミルクの違い						
教科書・参考文献	子どもの食と栄養 学建書院						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	学生個人が経験した食事に関する内容をレポートする。乳幼児の食事を知るために、課題を出して献立・食事のレポート作成を行なう。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	課題レポート提出と筆記試験の合計点が60点以上で合格						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
乳児保育 I		専門教育 科目	講義	2	S209		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
石山 真由美		1	前期	選択	幼	保	社
					◎		
授業概要	乳児保育の意義・目的について、テキストを参考に法律や3歳未満児の発育・発達について学ぶ。						
到達目標	乳児保育の意義・目的について、テキストを参考に法律や3歳未満児の発育・発達について学び、乳児保育の現状について理解する。						
授業の方法	講義形式で授業を行い、テキスト・ワークシート・DVDなどの補助教材を用いながら理解を深める。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業の中でいくつか課題を出し取り組むため、教科書・その他の参考文献により取り組みながら予習復習に30分程度必要						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	乳児のこころの発達				
2	乳児保育はなぜ必要か	10	乳児のことばの発達				
3	乳児保育の成り立ちを知ろう	11	乳児のからだ				
4	「子ども子育て支援新制度」	12	乳児における複数担任制				
5	知っておきたい法律のいろいろ	13	保育所で過ごす一日の流れ				
6	「保育所保育指針」とは	14	保護者との連携を考えよう				
7	「保育所保育指針」における乳児保育のポイント	15	発達の遅れと向き合う まとめと小テスト				
8	人生の基礎としての乳児期						
教科書・参考文献	はじめて学ぶ乳児保育 第二版 保育所保育指針解説書						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内の課題を基に事例を提示し全体で振り返りを行うとともに解説を行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	テスト50% 課題提出50%						
実務経験と担当科目内容との関連	現職の認定こども園園長が、これまでの保育者としての経験を活かし乳児保育の基本や保育方法等について授業を行う。						

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
乳児保育 II		専門教育 科 目	演 習	1	S210		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
山 田 陽 子		1	後 期	選 択	幼	保	社
					◎		
授業概要	乳児保育 I の理論を基に実践を学習する。対象に合わせた乳児の日常生活の保育・援助を具体的にその方法を身につける。						
到達目標	子どもの生活援助、発達への援助を身につける。演習科目なので様々な実技を習得する。						
授業の方法	講義と演習を組み合わせで行う。グループ演習を取り入れる。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業の予定と終了後に教本の復習60分程度必要						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーションとシラバスの説明	9	からだの観察と清潔の意義				
2	新生児の身体計測の実施	10	沐浴と清拭のしかた				
3	抱っこのしかた、おんぶのしかた	11	保育室内の環境と衛生				
4	乳児の衣服の知識。選び方、着衣	12	乳児保育における事故の発生と安全管理				
5	おむつの着脱、おむつはずし	13	病気の子どもへの個別援助				
6	母乳とミルクの違い、	14	母親への個別援助				
7	調乳のしかた、授乳のしかた	15	全体を通してのまとめ				
8	食事のしかた、個別の援助						
教科書・参考文献	はじめて学ぶ 乳児保育 同文書院						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	演習レポートを提出し、グループワークで討論する。学生間で共有する。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	課題レポート提出と筆記試験の合計点が60点以上で合格						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
教育原理		専門教育 科 目	講 義	2	S110		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
乳 井 英 雄		1	前 期	必 修	幼 ◎	保 ◎	社 ◎
授業概要	①教育とは何か ②教育の変遷と現状把握 ③諸問題の発見とディスカッション						
到達目標	教育の本質、教育の意義、教育の思想に関する知識を身に付ける。また、現代社会の教育問題や学校・地域・家庭における教育の現状を理解できるようになる。						
授業の方法	補助教材等を利用して講義を行なう。また、部分的に演習やアクティブラーニング形式を導入して行なう。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	指定文献を一読すること(30分)。講義内容を振り返り疑問点を考える(30分)。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンスおよび教育を考えることの意義	9	教育制度の現状と課題				
2	教育とは何か I	10	生涯教育の現状と課題				
3	教育とは何か II	11	保育と教育の歴史的変遷				
4	教育の思想について I	12	家庭・学校・地域と子どもの現状				
5	教育の思想について II	13	子どもに関する社会・教育問題				
6	家庭と教育の現状と課題	14	子どもと社会における諸問題の発見				
7	学校と教育の関連性	15	グループディスカッションとまとめ				
8	地域社会における教育の在り方						
教科書・参考文献	幼稚園教育要領および認定こども園教育・保育要領 「幼児教育の原理」 岸井勇雄						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	レポートは授業内で返却して解説、テストは採点后に個別返却にて不足点を補う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目です。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	定期試験にて60点以上の学生に単位を認定する。なお、再々試験までの実施とする。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
幼児理解の理論		専門教育 科目	講義	2	S112		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
阿部千春		1	後期	選択	幼 ◎	保 ◎	社
授業概要	幼児の発達を理解し、個々の発達程度の違いや心の葛藤などを観察から捉える理論と技法を学ぶとともに、保護者に対する対応等を習得することを目的とします。						
到達目標	幼児の理解や対応に生かせる心理学やカウンセリングの理論と技法についての基礎的な知識を習得することをめざします。						
授業の方法	教科書と講義資料を用い、講義形式で行います。また、グループワークなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習を行います。授業内で行う試験の受験が単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んで予習してください。(30分程度) 授業後は、講義資料とハンドブック、ワークブックを読んで復習し、学習した内容の要点をノートにまとめます。(30分程度)						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	カウンセリングの言語的技法②				
2	教育相談の現状とその必要性	10	カウンセリングの非言語的技法				
3	保育者・援助者の基本的な構え	11	対人関係・集団づくりに生かす理論と技法				
4	幼児期における心理的特性とその対応	12	アセスメントの方法と面接技法①				
5	幼児の理解と対応に生かすカウンセリングの基礎理論①	13	アセスメントの方法と面接技法②				
6	幼児の理解と対応に生かすカウンセリングの基礎理論②	14	保護者への対応				
7	幼児の理解と対応に生かすカウンセリングの基礎理論③	15	講義総括				
8	カウンセリングの言語的技法①						
教科書・参考文献	教科書：NPO 日本教育カウンセラー協会編「ピアヘルパーハンドブック」「ピアヘルパーワークブック」図書文化						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	テスト解説を行うことで、誤答問題の見直しができるようにします。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」に該当する科目です。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	成績評価は、授業内試験(80%)、授業後に提出する感想カード(20%)によって総合的に評価し、単位認定を行います。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育内容総論		専門教育科目	演習	2	S211		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
福島憲成		1	後期	選択	幼	保	社
					◎	◎	
授業概要	「幼児教育で育みたい資質・能力」、「幼児期に育ってほしい姿」を5領域の関連の中で総合的に学ぶ。						
到達目標	各領域の内容を「ことば」を中心に捉えて、こどもの発達・実態に応じた保育力を身につける。						
授業の方法	①教育要領・保育指針の関連を理解する ②教育要領と「3つの資質・能力」、「育ってほしい10の姿」を理解する ③5領域の関連を理解する ④5領域を踏まえた保育の実践 ⑤評価と反省からの新たな保育計画						
予習・復習等及び必要時間(分)	授業の課題作成やグループディスカッションの準備やまとめに1から2時間程度						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス「教育要領」「保育指針」から、教育の全体構造を理解する。	9	領域の繋がりを考えた保育の計画と実践Ⅳ(絵本・紙芝居作成の模擬保育)				
2	「幼稚園教育要領」における5領域を比較し、それぞれの関連性と全体構造を理解する。	10	領域の繋がりを考えた保育の計画と実践Ⅴ(劇・パネルシアターの指導案作成)				
3	幼稚園教育要領の歴史的変遷を理解し、認定こども園教育・保育要領への流れを考える。	11	領域の繋がりを考えた保育の計画と実践Ⅵ(劇・パネルシアターの模擬保育)				
4	幼稚園教育要領の「3つの資質・能力」「育ってほしい10の姿」を理解する。	12	模擬保育を通じての領域間連携の確認と結果の評価(グループワーク)				
5	発達と「3つの資質・能力」「育ってほしい10の姿」の本質と関連を考える。	13	模擬保育の結果を踏まえたPCDAサイクルの検討(グループワーク)				
6	領域の繋がりを考えた保育の計画と実践Ⅰ(手遊び・ゲームの指導案作成)	14	ディスカッション(グループワーク検討結果の全体発表)				
7	領域の繋がりを考えた保育の計画と実践Ⅱ(手遊び・ゲームの模擬保育)	15	5領域全体の振り返り(発表内容から今後の保育計画作成の展開へ)				
8	領域の繋がりを考えた保育の計画と実践Ⅲ(絵本・紙芝居作成の指導案作成)						
教科書・参考文献	幼稚園教育要領 「教育課程・保育課程」千葉武夫編						
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	課題の評価やグループディスカッション等でフィードバックを行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「3」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	授業への取り組み(20%)、授業内の課題(40%)、発表内容(40%)で評価する。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
教育心理学		専門教育 科目	演習	1	S113		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
藤村 敦		1	前期	必修	幼 ◎	保 ◎	社
授業概要	教科書やプリントを用いて子どもの発達や学びについての代表的な理論を学ぶ。 学んだ理論を実際の保育場面に当てはめて考える演習を行う。						
到達目標	子どもの発達や学びについての代表的な理論について理解を深めるとともに、実際の保育場面において、どのように理論を生かすことができるのかについて自分なりの意見をもつことができる。						
授業の方法	主に講義形式で行い、教科書やプリントを用いて代表的な理論を理解する学習を行う。また、各理論について理解を深めるための演習も行う。理論の理解の程度を確認するために、小テストを2回行うとともに、理論をどのように生かすことができるかについて考えを深めるために、各講義で演習課題を行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業で扱うテーマについて、事前に教科書を読んだり、インターネットで調べたりしておいてください(30分程度)。授業後に配布プリント、教科書を基に、授業内容を振り返り、学んだ理論について、実際の保育場面に当てはめて説明することができるよう復習してください(30分程度)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション(心理学と実践との関連)	9	子どもの学びを把握する(知能検査)				
2	子どもの発達①(発達段階を中心に)	10	子どものパーソナリティ				
3	子どもの発達②(心の理論を中心に)	11	子ども同士のかかわりの実際、小テスト1回目				
4	子どもの発達③(道徳性の発達を中心に)	12	学習評価				
5	子どもの学び①(学習理論)	13	個に応じた支援の在り方、小テスト2回目				
6	子どもの学び②(内発的動機づけ・外発的動機づけ)	14	発達障がいとその援助				
7	子どもの学び③(欲求階層構造説を中心に)	15	保育における発達援助				
8	記憶の仕方と学習						
教科書・参考文献	教師になる人のための学校教育心理学(ナカニシヤ出版)越良子編、参考文献:スタンダード教育心理学(サイエンス社)服部環・外山美樹編						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内演習課題については、次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し、振り返りを行うとともに、それについて解説を行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内演習課題(70%)、授業内小テスト(30%)を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。						
実務経験と担当科目内容との関連	義務教育学校での指導経験のある教員が、具体的な事例を基にして授業を行う。						

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
教育課程論		専門教育 科目	講義	2	S115		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
飯田 泰子		1	後期	選択	幼 ◎	保 ◎	社
授業概要	幼児期にふさわしい生活を営むために、幼稚園・保育所・こども園等における指導計画立案の必要性について学習する。						
到達目標	幼児のありのままの姿を受け止め、幼児の発達の実状を見通した計画立案の大切さを感じ取り、幼児期の生活に見通しをもつことの重要性を学んでいくことを目的とする。						
授業の方法	教科書やプリントを用い、講義形式で行う。また、指導計画作成の演習を4～5回取り入れ、より実践的な学習を進めていく。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業で配布した資料とノートの要点をまとめる復習(30分)						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス・指導計画の意義	9	幼稚園遊戯会見学				
2	教育課程・保育計画と指導計画の関連	10	保育における反省・評価 演習(遊戯会レポート)				
3	演習(子どもに経験させたい年間の活動)	11	子育て支援と指導計画				
4	保育の実践と保育者の役割	12	幼稚園・保育所と小学校の連携				
5	長期・短期の指導計画	13	幼児理解と評価・指導計画改善のポイント (カリキュラムのPDCAサイクルの考え方)				
6	演習(日案の作成)	14	まとめの演習				
7	園行事の意義と役割	15	全講義復習と確認まとめ				
8	演習(週日案の作成)						
教科書・参考文献	幼稚園教育要領の解説(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	演習やレポートの添削によるフィードバックを行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	演習、レポートの内容を総合的に評価する。60%以上で合格。						
実務経験と担当科目内容との関連	現職幼稚園園長が、行事や実際の現場の事例を交え授業を行う。						

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育内容研究Ⅱ(言葉)		専門教育 科目	演習	2	S311		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
小林 恵理子		1	後期	必修	幼 ◎	保 ◎	社
授業概要	乳児期から幼児期へと言葉が発達する過程で、子どもがどのように言葉を獲得するのか道筋について理解し、保育教材の扱い方などについて学ぶ。また、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の内容についてしっかり理解する。						
到達目標	1. 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の「言葉」の領域について理解する。 2. 「言葉」の領域に関する理論（言葉の発達、保育者の役割、援助など）を理解する。 3. 絵本、紙芝居などの保育教材の扱い方を理解し、それを実践しようとする。						
授業の方法	子どもの言葉の発達、保育・教育の役割に関する基礎的理論の説明、絵本や紙芝居などの教材研究や実演演習を行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	毎回、予習に相当する課題を示し、考えてもらう(30分程度)。復習は、講義中に筆記したノートを読み返して、重要な点をチェックできるような課題を提示する(30分程度)。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション: 「言葉」について 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」	9	ごっこ遊びとことば				
2	乳幼児期の発達と領域「言葉」	10	色々なことば遊び				
3	信頼関係から生み出されることば	11	グループワーク 紙芝居、エプロンシアター、ペープサート実演演習				
4	自分の考えや思いを伝えることば	12	グループワーク 紙芝居、エプロンシアター、ペープサート実演演習				
5	感情体験とことば	13	グループワーク 絵本の読み聞かせ実演演習				
6	書きことば(文字)が広げる世界	14	グループワーク 絵本の読み聞かせ実演演習				
7	領域「言葉」とその他領域との関係	15	教材研究発表				
8	幼児教育の現代的課題と領域「言葉」						
教科書・参考文献	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」(いずれもフレーベル館)						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	定期試験後に再試験対象者のみ、課題(試験やレポート等)を返却する。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	レポート(100%)						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育内容研究Ⅲ(環境)		専門教育 科目	演習	2	S312		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
毛利悦子		1	前期	必修	幼 ◎	保 ◎	社
授業概要	○幼児期における環境の意味、○子どもと環境とのかかわり、○領域「環境」にかかわる指導の実際、○環境問題と子どもの生活について理解を深める。						
到達目標	子どもと環境について探求し、持論をレポートにまとめる。						
授業の方法	教科書、DVD、担当教員作成資料を用い、講義及びグループ協議を行う。学外授業で地域環境を活用するとともに、情報機器を活用し学友の深化を図るようにする。						
予習・復習等及び必要時間(分)	毎回の振り返りに1時間程度、予習に30分程度必要。 教材研究、レポート作成に相当時間が必要。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス 幼児教育の基本と環境	9	保育の実際「物や道具にかかわって遊ぶ」				
2	領域「環境」の内容及び一年間の園生活	10	保育の実際「文字や数量図形に関心をもつ」				
3	保育の実際「自然にふれる春・夏」	11	保育の実際「地域の文化や伝承遊びに親しむ」				
4	保育の実際「自然にふれる秋」	12	指導計画と具体的な環境構成				
5	保育の実際「自然にふれる冬」	13	子どもとメディア環境				
6	保育の実際「生き物に親しみ、生命を大切にする」	14	現代社会における環境問題と子どもの生活①				
7	保育の実際「自然を取り入れて生活する」	15	現代社会における環境問題と子どもの生活②				
8	保育の実際「子どもと地域環境」						
教科書・参考文献	幼稚園教育要領解説 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園保育・教育要領						
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	レポート作成に当たっては、自然観察の仕方や関連資料の紹介、内容などを個別に助言・指導を行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「3」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	提出されたレポート等の課題評価 3回(100%)						
実務経験と担当科目内容との関連	前職(幼稚園教諭・教頭・園長)時の論文・研究発表資料等を資料及び教材として使用し、経験で得た事例や内容を基に、保育内容を講義する。						

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育内容指導Ⅲ(環境)		専門教育 科目	演習	2	S317		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
毛利悦子		1	後期	選択	幼 ◎	保 ◎	社
授業概要	領域「環境」にかかわる具体的な保育内容、指導計画、援助及び環境構成について探求する。 「感じる 体験する 調べる 考える 発表する」保育を探求する。						
到達目標	応答的、想像的な保育の在り方を知り、実践力を身につける。						
授業の方法	担当教員作成資料、DVDを用い、講義及びグループ演習、模擬保育等を行う。 学外授業等で地域・自然環境を活用するとともに情報機器を活用し学習の深化を図るようにする。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	毎回の振り返りに1時間程度、予習に30分程度必要。 教材研究、レポート作成に相当時間が必要。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス 子どもの発達と環境及び援助 乳児期の幼児	9	模擬授業①「自然を取り入れた生活」指導計画の立案 と教材準備				
2	子どもの発達と環境及び援助 満3歳未満の幼児	10	模擬保育①「自然を取り入れた生活」実施、振り返りと まとめ				
3	子どもの発達と環境及び援助 満3歳以上の幼児	11	模擬保育②「探求的な体験」指導内容の検討				
4	領域「環境」保育の実際 地域環境を活用した保育	12	模擬保育②「探求的な体験」指導計画の立案と教材準備				
5	領域「環境」保育の実際 メディアを活用した保育	13	模擬保育②「探求的な体験」実施、振り返りとまとめ				
6	幼児期におけるアクティブラーニング	14	学外授業② 地域の文化や伝承遊びに親しむ				
7	幼稚園と小学校のつながり 領域「環境」と小学 「生活」	15	まとめ 創造的・発展的な保育の探求				
8	学外授業 地域の環境と生活						
教科書・参考文献	幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	レポートについては、自然観察とその取り入れ方、関連資料の紹介、内容等を個別に助言指導を行う。 演習(模擬保育)については、グループ別に指導計画の立案、教材準備、環境構成などについて 助言を行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「3」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	演習2回(50%) 提出されたレポートの課題評価(50%)						
実務経験と担当科目内容との関連	前職(幼稚園教諭・教頭・園長)時の論文・研究発表資料等を資料及び教材として使用する。 又、経験で得た事例や内容を伝える。						

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
教育方法論		専門教育 科目	講義	2	S116		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
乳井 英雄		1	後期	選択	幼 ◎	保	社
授業概要	①教育方法と教育要領 ②3つの方法論 ③遊びを通じて育むとは ④プレゼンテーション						
到達目標	教育・保育の方法理論とその技法を身に付ける。また、幼稚園教育要領を理解した上で、育みたい資質・能力を踏まえた指導方法を習得し、保育全体を見渡す知識・技能を身に付ける。						
授業の方法	補助教材等を利用して講義を行なう。また、部分的に演習やアクティブラーニング形式を導入して行なう。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	指定文献を一読すること。(30分) 講義の内容を振り返り、疑問点を確認すること。(30分)						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンスおよび教育方法を学ぶことの意義	9	参加包育の方法論Ⅱ				
2	保育と幼児教育の考え方	10	5領域の理解とカリキュラムの課題				
3	教育方法における根拠と教育要領の関係性	11	育みたい資質・能力に基づいた評価の理解				
4	導く保育の方法論Ⅰ	12	保育における教材活用の理論と方法				
5	導く保育の方法論Ⅱ	13	保育環境における情報機器の活用と展開				
6	見守る保育の方法論Ⅰ	14	グループディスカッション				
7	見守る保育の方法論Ⅱ	15	全体プレゼンテーションとまとめ				
8	参加包育の方法論						
教科書・参考文献	幼稚園教育要領 こども園教育・保育要領 「教育課程の理論」 磯部裕子						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	レポートは授業内で返却して解説、テストは採点後に個別返却にて不足点を補う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目です。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目です						
成績評価の方法及び基準	定期試験にて60点以上の学生に単位を認定する。なお、再々試験までの実施とする。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング
教育実習事前事後指導		専門教育科目	演習	※	S407
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格
毛利悦子		1	前期	選択	幼保社 ◎
授業概要	附属認定こども園・附属大野幼稚園での基本実習のための事前指導、実習指導、事後指導を行い、心構えや準備、子ども理解、指導計画の理解を図る。				
到達目標	体験を通して、子ども理解、幼稚園教育の役割を理解し、2年時の幼稚園教育実習への意欲を高める。				
授業の方法	教科書・ビデオを用いる授業形式と指導計画の立案、教材研究(絵本の選択、読み語り等)の演習形式行う。				
予習・復習等及び必要時間(分)	毎回の振り返りに1時間程度、予習に30分程度必要。 教材研究、レポート作成に相当時間が必要。				
履修条件	特にありません。				
授 業 計 画					
1	ガイダンス 教育実習の概要	9	教材研究①		
2	教育実習の目的	10	教材研究②		
3	教育実習の心構えと準備①	11	指導計画の立案		
4	教育実習の心構えと準備②	12	教育実習に対する自己課題		
5	教育実習の心構えと準備③	13	教育実習事後指導 グループ協議①		
6	附属認定こども園見学と子どもとのふれあい	14	教育実習事後指導 グループ協議②		
7	子ども理解と教師の役割①	15	教育実習事後指導 自己評価 まとめ		
8	子ども理解と教師の役割②				
教科書・参考文献	自分でつくる BOOK&NOTE 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領				
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	教材研究、指導計画の立案、レポート作成については個別に、助言指導を行う。				
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目である。				
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目です				
成績評価の方法及び基準	教材研究及び指導案作成(40%) レポート3回(60%) 2年次教育実習の単位と連携させており、教育実習が不可の場合は、この単位も認定されない。 ※2年次、教育実習事前事後指導と合わせて1単位となる。				
実務経験と担当科目内容との関連	前職(幼稚園教諭・教頭・園長)時の論文・研究発表資料等を資料及び教材として使用する。 又、経験で得た事例や内容を伝える。				

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
こども園・幼稚園体験活動		専門教育 科目	実 習	1	S409		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
実習担当教員		1	集 中	選 択	幼	保	社
					◎		
授業概要	幼稚園免許を取得するための必修科目。附属認定こども園・大野幼稚園において、保育体験を及び園行事への参加をし、教師の役割と援助の実際について学ぶ。						
到達目標	子ども理解、幼稚園教諭の役割を理解し、2年次の教育実習への意欲を高める。						
授業の方法	附属認定こども園、附属大野幼稚園における体験学習。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	毎日の振り返りと記録に2時間、準備に1時間必要。 体験学習の目的、教師の役割と援助についての予習の時間、絵本の語り聞かせの教材研究及び準備についての相当時間が必要。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	園生活一日の流れの観察と記録(継続) 子どもたちの生活の援助と子ども理解(継続) 一日の振り返りと環境整備(継続) 部分保育指導計画の立案と教材研究及(継続)						
2	部分保育指導計画の見直しと教材準備						
3	部分保育の教材準備						
4	部分保育の実施と評価・反省						
5	体験学習全体の評価・反省						
6	園行事(運動会等)への参加						
7	園行事(遊戯会等)への参加						
教科書・参考文献	自分でつくるBOOK&NOTE 幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	実習園の評価・日誌・レポートにより2年次の教育実習に向け、不足を補いフィードバックしていく。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	実習園の評価(50%) 実習日誌(30%) レポート(20%)						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
ピアノ表現法 I		専門教育 科 目	演 習	1	S318		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
相原千鶴子・斎藤佳子・谷藤有紀・山本和生		1	通 年	選 択	幼	保	社
授業概要	ピアノ技術の質の向上を目的とする科目として位置づける。 保育士として必要なピアノ技術の更なる向上と自らの教職への適性を検討し、意欲を高める。						
到達目標	子どもたちの表現力豊かな感性を育める音楽環境を、子供たちと一緒に楽しめる保育者を目指す。						
授業の方法	教材を用い、個人レッスン形式で行い、音楽の基礎を修得させる。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	毎日の予習、復習を習慣づけるようにする（1時間程度）必要がある。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス・シラバス説明	16	ト長調の和音…主和音・属和音No.35・No.36				
2	ハ長調の和音…主和音・属七和音No.1～No.4	17	ト長調の下属和音No.37・No.38				
3	分散和音の伴奏形（その1・その2）	18	いろいろな伴奏形（その1・その2）				
4	分散和音の伴奏形（その3・その4）	19	いろいろな伴奏形（その3・その4）				
5	4分音符と8分音符のリズムNo.21・No.22	20	高音部 No.43・No.44				
6	4分音符と8分音符のリズムNo.23・No.24	21	高音部 No.45・No.46				
7	ハ長調の下属和音No.25・No.26 小テスト	22	4分の3拍子と8分の3拍子				
8	ヘ長調の和音…主和音・属和音No.27・No.28	23	8分の3拍子と8分の6拍子				
9	ヘ長調の和音…主和音・属和音No.29・No.30	24	符点音符のリズムNo.49・No.50				
10	ヘ長調の下属和音No.31・No.32	25	符点音符のリズムNo.51・No.52				
11	ト長調の和音…主和音・属和音No.33・No.34	26	符点音符のリズムNo.53・No.54				
12	課題の練習①	27	課題の練習①				
13	課題の練習②	28	課題の練習②				
14	課題の練習③	29	課題の練習③				
15	課題の練習、小テスト	30	課題の練習、小テスト				
教科書・参考文献	教職課程のための大学ピアノ教本						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	小テストによるフィードバック						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「3」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目です。						
成績評価の方法及 び基準	小テスト2回各20点・試験60点とする						
実務経験と担当科 目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
幼児総合研究		自由選択科目	演習	※	F101		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
福島憲成		1・2	前期・集中	選択	幼	保	社
授業概要	保育者・教育者として自らがどう輝くかを学ぶ。 見えない者が見えるように、知識を高める。 見えている者が本当に見えるように心を育てる。 より高くジャンプできるように体をきたえる。						
到達目標	子供たちの「いのち」（智・心・体）を大きく伸ばせる教育者としての総合力を身につける。						
授業の方法	講義で学んだことを必ず実践・発表し、相互に評価し合って授業を展開していきます。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	講義で学ぶ理念・テーマ・課題について、実践発表のための制作・練習が重要です 予習練習 30分・復習 1時間程度						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス・幼児総合研究の目的	9	光と影で遊ぶ 手影絵・指影絵				
2	輪になって遊ぼう	10	人形で遊ぶ 誰でも出来る腹話術				
3	仲間作り 手遊び・ゲームの実践	11	劇遊び パネルシアターの制作				
4	仲間作り 手遊び・ゲームの実践	12	制作実践				
5	ことばを楽しむ 絵本の読み聞かせ	13	制作実践				
6	紙芝居	14	作品発表				
7	語り童話	15	合評				
8	絵描き歌						
教科書・参考文献	担当者の自主編集						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	作品の提出の評価により個々にフィードバックを行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「2」「3」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び 基準	レポート・提出物・及び課題ごとの発表の評価（細かいポイントを事前に示した到達目標表）等、 2年次実施内容と総合的に評価する。 ※1年前期と2年後期集中と合わせて2単位とする。						
実務経験と担当科目 内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
国際保育理解		自由選択科目	演習	1	F102		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
こども学科担当教員		1	集中	選択	幼	保	社
授業概要	世界がグローバル化している時代にあって、私たちがより平和な、質の高い国際的交流協力関係を築いていくためには、言語、文化、歴史の理解はもとより、国際的な交流や協力の意義、それに内在する諸問題を深く理解していかなければならない。この講座は、函館市と姉妹都市関係にある韓国高陽市への研修旅行を軸にして韓国の幼稚園・保育園訪問・見学・交流を行う。						
到達目標	アジアから世界へと広く繋がっている世界を体験的に学ぶことと国際保育の理解を目標とする。						
授業の方法	韓国研修旅行の事前研修（講義）と韓国研修旅行により行う。						
予習・復習等及び必要時間(分)	研修旅行を充実したものにするためには、十分な事前学習が必要で、事前研究前に韓国文化を調べるなどの1時間ほどの事前学習が必要。						
履修条件	学年・学校は問わず、コンソーシアム函館に加盟している学校の単位互換として、函館の他短大・大学の学生の参加も可能。						
授 業 計 画							
1	講義 オリエンテーション	9	研修旅行				
2	事前研修 韓国語	10	研修旅行				
3	事前研修 日韓の歴史的関係	11	研修旅行				
4	事前研修 韓国の衣食住文化	12	研修旅行				
5	事前研修 海外旅行の準備・注意点	13	研修旅行				
6	研修旅行	14	研修旅行				
7	研修旅行	15	研修旅行のまとめ				
8	研修旅行						
教科書・参考文献	なし						
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	研修の準備段階において、浴衣の着付けや語学の勉強が含まれる。着付けにおいては、できた点や改善点を、語学においては復習内容と成果を事前研修時間内でコメントとしてフィードバックする。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「2」「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	事前研修への参加状況 40%、国際交流の意欲および現地交流参加度 30%、レポート 30%、による総合評価。						
実務経験と担当科目内容との関連							

## オフィスアワーについて(2022 年度)

### オフィスアワーとは

オフィスアワーは、学生が授業のことや学校生活のことなどについて、質問・相談あるいは個人的に指導を受けるために設定された時間です。充実したキャンパスライフを過ごすために、有効に活用してください。

なお、オフィスアワーに設定されている時間であっても、会議や出張等で不在になる場合は各研究室前に掲示します。

また、オフィスアワー時間帯以外でも質問・相談等を受けますので、各教員の都合を確認してください。

### オフィスアワーの曜日・時間

教員氏名	曜日	時間帯
福島 憲 成	木曜日	16:25~17:25
藤野 明 信	水曜日	16:25~17:25
江端 深 雪	金曜日	16:25~17:25
神林 眞 里	水曜日	16:25~17:25
乳井 英 雄	月曜日	16:25~17:25
毛利 悦 子	月曜日	16:25~17:25
山田 陽 子	火曜日	16:25~17:25
渋田 昌 士	月曜日	16:25~17:25
阿部 千 春	木曜日	16:25~17:25
渡谷 能 孝	月曜日	16:25~17:25
伊藤 聡	月曜日	16:25~17:25
藤村 敦	火曜日	16:25~17:25
濱嶋 幸 司	水曜日	16:25~17:25
伊藤 好 一	金曜日	16:25~17:25
池田 隼	金曜日	16:25~17:25





[www.hakodate-otani.ac.jp](http://www.hakodate-otani.ac.jp)



# HAKODATE OTANI COLLEGE

講義概要 2023 こども学科 2年

# こども学科

## ＜教育目的＞

保育者として必要な基礎知識、技能を学ぶと同時に、職業人としての人格向上を目指し、すべての人に対してあたたかな心と優しさを持ち、ともに育ちあうことを大切にする人間性豊かな保育者・支援者の育成を目的とする。

## ＜教育目標＞

1. [多様な専門性を身につけた保育者の養成]  
社会や地域、時代のニーズにあった知識・技術を習得するための教育を実施する。
2. [人を育てる人・支援する人として社会性を持った保育者の養成]  
他と協調できる良好な人間関係の構築を目指したコミュニケーション能力の育成を目指すと同時に、社会人としての人間形成に努める。
3. [心豊かに表現し主体的で行動力のある保育者の養成]  
様々な活動体験・表現活動を通して、多様な価値観や豊富な生活力を育む。

## ＜学習成果＞

1. 保育の内容・方法を理解し、子どもの実態に応じた保育方法を探究できる。
2. 子どもの理解に基づいてコミュニケーションをとることができ、主体的行動がとれる。
3. 豊かな表現力を持って、子どもの理解と支援ができる。
4. 保育教諭としての資質を身につけ、専門職として地域に貢献できる。

## ＜卒業認定・学位授与の方針＞

学則に基づき、修業年限以上在籍し所定の単位数を修得するとともに、以下の素養を身につけた学生に対して短期大学士の称号を授与します。

1. 保育の内容や方法を習得すると同時に、様々な子どもに対応できる人間性を獲得する。
2. 子どもの実態を理解し、豊かな表現力・コミュニケーションによって、主体的・積極的に子どもの活動を支援できる。
3. 地域からの要望や地域の活動に貢献する奉仕の精神を持ち、総合的な人間力や保育者としての資質の向上を継続的に図ることができる。

## [講義概要]

### 授 業

- (1) 授業はすべて教育課程に基づいて実施する。
- (2) 授業は集中講義及び休業日に実施する科目を除き、すべて時間割に従って実施する。
- (3) 時間割は教育課程に基づき、学期毎に編成する。
- (4) 時間割や教室の変更は教務の承認を得なければならない。
- (5) 各講義の開講は次のとおりとする。

2023年 こども学科カリキュラム (2022年度入学者)

分類	科目	科目No.	学習成果との関連	卒業認定・学位授与の方針	実務経験のある教員による授業科目	単位	授業区分	時間	2022年(終了)		2023年(2年)		卒業要件	幼免	保育士	社会福祉主事(任)
									前期	後期	前期	後期				
教養教育科目	人間学 I	E101	4	1		2	講義	2	2				◎		◎	
	人間学 II	E102	4	1		2	講義	2		2			△		○	
	こころの科学	E103	1	1		2	講義	2	2				△		◎	
	日本国憲法	E104	4	1		2	講義	2	2				△	◎	○	
	障害者福祉論	E105	4	3		2	講義	2			2		△		○	◎
	現代地域学論	E106	4	3		2	講義	2					△			
	情報処理演習	E107	4	2		2	演習	2	2				△	◎	○	
	英語	E201	2	1・2		2	演習	2		2			△		◎	
	英会話	E202	2	2		2	演習	2	2				△	◎	○	
	健康科学論	E301	1・2・3・4	1		1	講義	1	1				△	◎	◎	
	健康とスポーツ	E302	1・2・3・4	2		1	実習	3	3				△	◎	◎	
	総合教養演習	E401	4	3		1	演習		通年		通年		△			
専門教育科目	幼児音楽	S301	1・3	1・2		2	演習	2	2				◎	◎	◎	
	保育音楽	S302	1・3	1・2		1	演習	2		2			○		◎	
	音楽表現演習Ⅰ	S303	1・3	1・2		1	演習	2			2		◎		◎	
	音楽表現演習Ⅱ	S304	1・3	1・2		1	演習	2				2	○		◎	
	音楽実践	S305	3	2		1	演習	2		2			○		◎	
	幼児美術	S306	1・3	2		2	演習	2	2				◎	◎	◎	
	保育造形	S307	1・3	2		1	演習	2		2			○		◎	
	幼児体育	S308	1・2・3・4	2		2	演習	2			2		◎	◎	◎	
	保育体育	S309	1・2・3・4	2		1	演習	2				2	○		◎	
	基礎国語	S101	2	2		2	講義	2	2				○	◎	◎	
	児童文化Ⅰ	S102	1	1・2	●	2	講義	2			2		◎		◎	
	社会福祉	S103	4	3		2	講義	2	2				○		◎	◎
	保育の心理学	S201	1・2	1		2	講義	2		2			○		◎	
	子ども家庭支援の心理学	S202	1・4	1		2	講義	2			2		○		◎	
	子育て支援	S203	4	3		1	演習	2		2			○		◎	
	子ども家庭福祉	S204	1	1		2	講義	2		2			◎		◎	
	子ども家庭支援論	S205	1・4	3		2	講義	2			2		○		◎	
	保育原理	S104	1・4	1		2	講義	2	2				◎		◎	◎
	保育原理Ⅱ	S105	1・4	1		2	講義	2				2	○		◎	
	社会的養護Ⅰ	S106	1・4	3		2	講義	2		2			○		◎	
	社会的養護Ⅱ	S107	4	1	●	1	演習	2			2		○		◎	
	保育実習指導Ⅰ	S401	1・4	2		2	演習	4		4			○		◎	
	保育実習指導Ⅱ	S402	1・4	1		1	演習	1			1		○		◎	
	保育実習指導Ⅲ	S403	1・2	1		1	演習	1			1		○		◎	
	保育実習Ⅰ	S404	1・2・3・4	3		4	実習	12		6	6		○		◎	
	保育実習Ⅱ	S405	1・2・3・4	3		2	実習	6			6		○		◎	
	保育実習Ⅲ	S406	2・4	3		2	実習	6			6		○		◎	
	子どもの保健	S206	2・4	1		2	講義	2				2	◎		◎	
子どもの食と栄養	S207	1	1		2	演習	2		2			○		◎		
子どもの健康と安全	S208	2・4	1		1	演習	2				2	◎		◎		
乳児保育Ⅰ	S209	1	1		2	講義	2	2				○		◎		
乳児保育Ⅱ	S210	1	1		1	演習	2		2			○		◎		

分類	科目	科目No.	学習成果との関連	学位授与の方針・卒業認定	実務経験のある教員による授業科目	単位	授業区分	時間	2022年(終了)		2023年(2年)		卒業要件	幼免	保育士	社会福祉士(主任)
									前期	後期	前期	後期				
専門教育科目	特別支援教育「基礎」	S108	2・4	1	●	2	演習	2			2		○	◎	◎	
	教育カウンセリング	S109	1・2	1		2	講義	2			2		○	◎		
	教育原理	S110	1・4	1		2	講義	2	2				◎	◎	◎	◎
	保育者・教師論	S111	1・2・3・4	1・3		2	講義	2			2		○	◎	◎	
	幼児理解の理論	S112	1・2	1		2	講義	2		2			○	◎	◎	
	保育内容総論	S211	1・3	2		2	演習	2		2			○	◎	◎	
	教育心理学	S113	4	1		1	演習	2	2				◎	◎	◎	
	教育財政学	S114	1・4	1		1	講義	1			1		○	◎		
	教育課程論	S115	1	2		2	講義	2		2			○	◎	◎	
	保育内容研究Ⅰ(人間関係)	S310	1・4	1		2	演習	2			2		◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅱ(言葉)	S311	1・2	1・2		2	演習	2	2				◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅲ(環境)	S312	1・3	2		2	演習	2	2				◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅳ(健康)	S313	1・2・3・4	2		2	演習	2			2		◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅴ(表現)	S314	1・3・4	2		2	演習	2			2		◎	◎	◎	
	保育内容指導Ⅰ(健康)	S315	1・2・3・4	2		2	演習	2			2		○	◎	◎	
	保育内容指導Ⅱ(人間関係・言葉・表現)	S316	1・2・3	2		2	演習	2			2		○	◎	◎	
	保育内容指導Ⅲ(環境)	S317	1・3	2		2	演習	2		2			○	◎	◎	
	教育方法論	S116	1・4	1		2	講義	2		2			○	◎		
	教育実習事前事後指導	S407	1・4	1		1	演習	2	1		1		○	◎		
	教育実習	S408	1・2・3・4	3		3	実習	9			9		○	◎		
こども園・幼稚園体験活動	S409	1・2・3	1		1	実習	3	3				○	◎			
保育・教職実践演習(幼稚園)	S410	1・2・3・4	1・2・3		●	2	演習	2			2		○	◎	◎	
ピアノ表現法Ⅰ	S318	3	2			1	演習	2	1	1			○			
ピアノ表現法Ⅱ	S319	3	2			1	演習	2			1	1	○			

◎印は卒業及び、幼免・保育士の必修科目です。

卒業するためには、その他に△印の中から12単位以上、○印の中から23単位以上履修すること。保育士の資格を取得する学生は、○印の中から選択必修。

#### ※実習履修について

##### —教育実習(幼稚園本実習)—

教育実習(本実習)は、実習前において開講している学則必修科目および幼稚園教諭二種免許状取得科目に関して未修得がある場合、または修得見込みが立たない場合は教育実習(本実習)を履修することはできない。

実習中止および実習成績「不可」、再実習、実習延長等については、「実習中止・再実習等に関する学科規程」に別途定める。

##### —保育実習(保育園・施設)—

実習前において開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修することはできない。

実習中止および実習成績「不可」、再実習、実習延長等については、「実習中止・再実習等に関する学科規程」に別途定める。

保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実習期間、時間数については、各々概ね10日間80時間以上とする。

こども学科コース選択科目

分類	科目	科目 No.	学習成果との関連	卒業認定・学位授与の方針	実務経験のある教員による授業科目	単位	区分	授業	時間	コース別	2022年(終了)		2023年(2年)		備考
											前期	後期	前期	後期	
幼児教育	こどもの造形と遊び	S501	1・2・3・4	2		1	演習	2	2	幼教			2		
	こどもの音楽と遊び	S502	1・2・3	2		1	演習	2	2	幼教			2		
	こどもの健康と遊び	S503	1・2・3・4	2		1	演習	2	2	幼教				2	
保育福祉	地域福祉論	S604	4	3		2	講義	2	2	保福			2		社会福祉主事(任)
	ボランティア活動論	S602	4	3		2	講義	2	2	保福				2	
	福祉住環境コーディネイターI	S603	4	3		1	演習	2	2	保福			2		
保育心理	教育カウンセリング心理学	S701	1・2	1		1	演習	2	2	保心				2	
	セラピー概論	S702	1・2	1		2	講義	2	2	保心			2		
	保育心理演習	S703	1・2	1		1	演習	2	2	保心			2		

自由選択科目

※自由選択科目の単位は卒業単位数には算入しない。

分類	科目	科目 No.	卒業認定・学位授与の方針	学習成果との関連	実務経験のある教員による授業科目	単位	区分	授業	時間	2022年(終了)		2023年(2年)		備考
										前期	後期	前期	後期	
	幼児総合研究	F101	2・3	2		2	演習	2	2				集中	
	国際保育理解	F102	4	2・3		1	演習	2	2		集中		集中	海外研修
	ウィンタースポーツ	F103	1	3		1	演習	2	2				集中	

●実務経験のある教員による授業科目の単位合計数 : 7単位

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
障害者福祉論		教養教育 科目	講義	2	E105		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
渡谷能孝		2	後期	選択	幼	保	社
					○	◎	
授業概要	障がい者福祉に関する歴史的変容、法体系、障害の種類と対応などの基礎的な知識を学習し、これからの障がい者支援について考えていく。						
到達目標	障がい者福祉に関する基礎的な知識の習得、障がいの状況に応じた支援の在り方、具体的な方法について理解を深めることをねらいとする。						
授業の方法	スライドとプリントを用いた講義形式で授業を行う。また、現代における障がい者にかかわる福祉課題などについて、グループディスカッションを通して考える。						
予習・復習等及び必要時間(分)	講義終了時に告知する次回の授業テーマについて、予め自己学習を行う。(25分程度)。スライド表示したものや配布したプリントを再確認して復習(20分程度)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス、障害者基本法	9	認知症Ⅰ(種類)				
2	障がいのとらえ方(ICF)	10	認知症Ⅱ(症状と支援)				
3	ノーマライゼーション	11	リハビリテーション				
4	障がい者の生活実態	12	レクリエーション				
5	日本における障がい者福祉施策	13	障がい者雇用				
6	バリアフリーとユニバーサルデザイン	14	障がい者の福祉課題(グループディスカッション)				
7	高次脳機能障害	15	差別をなくすために				
8	パーキンソン病						
教科書・参考文献	参考文献：社会福祉学習双書 2023 障害者福祉論						
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	授業内試験の実施後に返却して解答、解説を行うことで、各々の理解度を再確認する。						
学習成果との関連	当該科目の学習成果の「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内試験(100%)を評価の原則とし、グループディスカッション(積極性、論理的思考、他者への配慮)の実施状況から、授業の到達目標の達成度合いを含めて総合的に判断して評価します。						
実務経験と担当科目内容との関連	第一種社会福祉事業における実務経験を基に、幅広い視点で授業を展開していく。						

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
総合教養演習		教養教育 科目	演習	1	E401		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
こども学科担当教員		1.2年次	通年	選択	幼	保	社
授業概要	社会人としての基礎力を身につけるためには、総合的な一般教養に磨きをかけることが求められます。建学の精神の下、保育者としてのライフスタイルを形成するための基礎知識を学びながら、実践的に活用できる力を養います。						
到達目標	多様な職業観を養い個々の資質の向上を目指すとともに、保育者としてあるべき教養を深めることで基本的なふるまいができことを目的とします。						
授業の方法	オムニバス形式で実施。卒業までの2年間で学ぶこととし、講義の実施日程等については順不同で実施することとし、その都度連絡をする。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	予習として、日頃から新聞を読み現代社会の状況に関心をもつ(30分)。 講義配布資料等の見直しで復習する(15分)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション	9	キャリア形成Ⅰ(求人票)				
2	別院参拝(東本願寺函館別院)	10	キャリア形成Ⅱ(エントリー)				
3	基礎教養Ⅰ(学科特別講座)	11	キャリア形成Ⅲ(業界研究)				
4	基礎教養Ⅱ(建学の精神)	12	キャリア形成Ⅳ(業界研究)				
5	基礎教養Ⅲ(お釈迦様の教え)	13	キャリア形成Ⅴ(履歴書)				
6	基礎教養Ⅳ(親鸞の教え)	14	キャリア形成Ⅳ(内定の意味と規定)				
7	危機管理研修Ⅰ(賢い消費者)	15	総括				
8	危機管理研修Ⅱ(薬物乱用防止)						
教科書・参考文献	ありません。授業内で適宜配布、紹介。						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内で実施する小テストや課題は随時フィードバック。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与 の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び 基準	授業内の提出課題を100%評価の原則とします。						
実務経験と担当科目 内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
音楽表現演習 I		専門教育 科 目	演 習	1	S303		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
土 谷 育 代		2	前 期	必 修	幼	保	社
					◎		
授業概要	保育現場で使われる楽器の取り扱い方や奏法を学び、合奏する。手作り楽器や物語に音楽を付ける経験を通して豊かな感性と表現力を身につける。ピアノ演奏と弾き歌いを行い、技能と表現力を高める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育現場で使われる楽器の取り扱い方や奏法を説明でき、合奏できる。</li> <li>・物語に音楽を付け、創造性豊かに音楽表現できる。</li> <li>・手作り楽器、ボディパーカッションなど様々な音楽表現ができる。</li> </ul>						
授業の方法	教科書と配布プリントを用い、演習形式を中心に行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	毎日30分～1時間以上のピアノ練習が必要。合奏の練習では復習に1時間程度が必要。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション 子どもの発達と音楽表現	9	ボディパーカッション				
2	手作り楽器 ピアノ弾き歌い①	10	器楽合奏③ ピアノ弾き歌い③				
3	手作り楽器でアンサンブル 子どもと楽器	11	絵本と音楽①				
4	子どもの楽器の種類と演奏方法	12	絵本と音楽②				
5	器楽合奏① ピアノ弾き歌い②	13	絵本と音楽発表 ディスカッション まとめ				
6	器楽合奏②	14	ピアノ演奏とピアノ弾き歌い				
7	器楽合奏発表	15	ピアノ演奏とピアノ弾き歌いの発表 まとめ				
8	ピアノ弾き歌い小テスト						
教科書・参考文献	教科書：神原雅之編著『幼児のための音楽教育』教育芸術社 参考文献：駒久美子編著『コンパス音楽表現』建帛社、佐藤千賀子編著『合奏楽譜ベストセレクション』ひかりのくに、小林美実編『こどものうた200』チャイルド本社、小林美実編『続こどものうた200』チャイルド本社						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	ピアノ演奏とピアノ弾き歌いでは授業時に助言を行い、小テストと発表の後にも助言を行う。課題、合奏、発表では授業時に助言を行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「3」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	ピアノ演奏とピアノ弾き歌い発表 (50%) ピアノ弾き歌い小テスト (10%) 絵本と音楽発表 (20%) 課題、アンサンブル、器楽合奏発表 (20%)						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
音楽表現演習Ⅱ		専門教育 科目	演習	1	S304		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
土谷育代		2	後期	選択	幼	保	社
					◎		
授業概要	「音楽表現演習Ⅱ」での合奏の実践を踏まえて、楽器の音色や特徴を理解して合奏をし、保育者に必要な音楽表現力を伸ばす。グループでテーマ、曲、演奏する楽器等を考えて自由曲の合奏発表をする。ピアノ演奏と弾き歌いを行い、実践力を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器の特徴をとらえ、子どもが楽しむことができる合奏演奏を自ら考え、創造性豊かに表現することができる。</li> <li>・楽器演奏や弾き歌い等の様々な知識と技能を生かし、音楽表現活動を指導、援助ができる。</li> </ul>						
授業の方法	教科書と配布プリントを用い、演習形式を中心に行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	毎日30分～1時間以上のピアノ練習が必要。合奏の練習では復習に1時間程度が必要。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション ピアノ演奏と弾き歌い①	9	指揮法①	ピアノ演奏と弾き歌い④			
2	ピアノ演奏と弾き歌い②	10	指揮法②	自由曲の器楽合奏発表について			
3	ミュージックベル合奏	11	自由曲の器楽合奏発表曲の練習①				
4	ミュージックベル合奏発表	12	自由曲の器楽合奏発表曲の練習②				
5	日本の幼児音楽教育の歴史と世界の音楽教育について 器楽合奏①	13	自由曲の器楽合奏発表曲の練習③				
6	器楽合奏② ピアノ演奏と弾き歌い③	14	自由曲の器楽合奏発表 ディスカッション まとめ				
7	器楽合奏発表	15	ピアノ演奏とピアノ弾き歌いの発表 まとめ				
8	ピアノ弾き歌い小テスト						
教科書・参考文献	教科書：神原雅之編著『幼児のための音楽教育』教育芸術社 参考文献：佐藤千賀子編著『合奏楽譜ベストセレクション』ひかりのくに、小林美実編『こどものうた200』チャイルド本社、小林美実編『続こどものうた200』チャイルド本社						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	ピアノ演奏とピアノ弾き歌いでは授業時に助言を行い、小テストと発表の後にも助言を行う。課題、合奏、発表では授業時に助言を行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「3」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	ピアノ演奏とピアノ弾き歌い発表 (50%) ピアノ弾き歌い小テスト (10%) 自由曲の器楽合奏発表 (20%) 課題、ミュージックベル合奏発表、器楽合奏発表 (20%)						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
幼児体育		専門教育 科目	演習	2	S308		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
池田 隼		2	前期	必修	幼 ◎	保 ◎	社
授業概要	運動遊びの実践を通し、運動の楽しさや運動の特性を踏まえた指導・援助方法などについて実践を通して学ぶ。						
到達目標	運動遊びの実践を通して、具体的な指導場面を想定して保育を構成する方法や保育実践の評価方法について学びを深めることを目的とする。						
授業の方法	主に実技形式で行う。運動遊びの実践を通し、運動することの楽しさや運動の特性を踏まえた指導・援助方法を通して学習する。また、必要に応じて單元ごとに資料を配布し学びを深める。さらに、グループディスカッション及び発表等を実施しながら進めていく。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	各運動遊びにおける指導案の作成などの予習・復習が2時間程度必要である。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション	9	表現遊び(ダンス①)				
2	様々な運動遊び①	10	表現遊び(ダンス②)				
3	様々な運動遊び②	11	表現遊び(ダンス③)				
4	ボール遊び①	12	表現遊び(ダンス④)				
5	ボール遊び②	13	表現遊び(ダンス⑤)				
6	遊びの実践と振り返り①	14	表現遊び(ダンス⑥)				
7	遊びの実践と振り返り②	15	表現遊び(ダンス発表)				
8	遊びの実践と振り返り③						
教科書・参考文献	資料を配布						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	單元ごとのレポートの内容についてフィードバックを行う。また、單元ごとの遊びの要点を再確認し、遊びやねらいに応じた指導・援助方法等について理解を深める。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	実技(70%)、提出されたレポート等の課題評価(30%)を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。 ※後期と合わせて2単位とする。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育体育		専門教育科目	演習	1	S309		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
池田 隼		2	後期	選択	幼	保	社
					◎		
授業概要	創作ダンスを通し、リズムとともに身体を動かすことの楽しさや運動の特性を踏まえた指導・援助方法などを学ぶ。						
到達目標	本科目は、幼稚園教諭・保育士として必要な創作ダンスの基礎を学び、ダンスの特性を踏まえた指導・援助方法など実践を通して保育現場で活用できる実践力を身につけることを目的とする。						
授業の方法	主に実技形式で行う。複数のグループを編成し、各グループでディスカッションを行いながら創作ダンスを完成させ、最終的に発表を行う。						
予習・復習等及び必要時間(分)	創作ダンスの振りの作成や練習などの時間が各回1時間程度の予習・復習が必要である。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション	9	創作ダンス⑤				
2	ダンスの基礎と理論①	10	創作ダンス⑥				
3	ダンスの基礎と理論②	11	創作ダンス⑦				
4	ダンスの基礎と理論③	12	創作ダンス⑧				
5	創作ダンス①	13	創作ダンス⑨				
6	創作ダンス②	14	創作ダンス⑩ (レポート提出)				
7	創作ダンス③	15	ダンス発表				
8	創作ダンス④						
教科書・参考文献	資料を配布						
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	レポートの内容についてフィードバックを行う。また、單元ごとに進捗状況に関するフィードバックを行い、創作ダンスについて理解を深める。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	実技(90%)、提出されたレポート等の課題評価(10%)を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
児童文化 I		専門教育 科目	講義	2	S102		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
毛利悦子		2	前期	必修	幼	保	社
					◎		
授業概要	社会の変化により、子どもの文化的な生活が変わることの理解を深め、子どもたちの心豊かに育むための生活の在り方を探求する。						
到達目標	子どもの心を豊かに育むためにどのような生活を営んでいくか持論を確立する。						
授業の方法	資料、ビデオ等を用い講義形式で行う。また伝承遊びとこどもの生活では実技を行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	毎回の振り返りに1時間程度、予習に30分程度必要。 小論文作成に当たっては、講義内容の復習、テーマに応じた資料収集や研究ために相当時間を要する。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス 子どもたちに伝えていきたいこと①	9	現代社会における子どもの生活②				
2	成育歴と子どもの生活	10	子どもたちに伝えていきたいこと②				
3	伝承文化と子どもの生活①	11	子どもたちに伝えていきたいこと③				
4	伝承文化と子どもの生活②	12	子どもたちに伝えていきたいこと④				
5	時代背景と子どもの生活①	13	子どもたちに伝えていきたいこと⑤				
6	時代背景と子どもの生活②	14	子どもたちに伝えていきたいこと⑥				
7	時代背景と子どもの生活③	15	子どもたちに伝えていきたいこと⑦ まとめ				
8	現代社会における子どもの生活①						
教科書・参考文献	「遊びの指導」財団法人幼年研究所 同文書院						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	小論文についてはテーマ設定、関連資料の紹介、内容等を個別に助言・指導を行う。実技についても個別に助言を行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	小論文(70%) 実技(30%)						
実務経験と担当科目内容との関連	前職(幼稚園教諭・教頭・園長)時の論文・研究発表資料等を資料及び教材として使用する。又、経験で得た事例や内容を伝える。						

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
子ども家庭支援の心理学		専門教育 科 目	講 義	2	S202		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
乳 井 英 雄		2	前 期	選 択	幼	保	社
		◎					
授業概要	①成長期と発達 ②子どもの心に関する諸問題 ③家族と家庭の意義 ④家庭に関する諸問題 ⑤子ども家庭支援の様々な実際						
到達目標	子どもと家庭の抱える課題や諸問題を理解できるようになる。また、支援の在り方について様々な実践等を基に、家族の心理を含めて理解できるようになる。						
授業の方法	補助教材を利用して、講義形式と演習形式を織り交ぜる。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	指定文献を一読すること(30分)。講義内容を振り返り疑問点を考える(30分)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	子育て家庭の現状と課題				
2	成長期と発達Ⅰ	10	子どもの生育環境とその影響				
3	成長期と発達Ⅱ	11	多様な家庭に対する理解と援助				
4	生涯発達の理解	12	子ども家庭支援の実際Ⅰ				
5	子どもの心の健康に関する問題	13	子ども家庭支援の実際Ⅱ				
6	家庭と家族の意義と機能Ⅰ	14	子ども家庭支援の実際Ⅲ				
7	家庭と家族の意義と機能Ⅱ	15	グループディスカッションとまとめ				
8	保育者の成長と支援						
教科書・参考文献	保育所保育指針 「保育実践に求められる子ども家庭支援」 橋本好市						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	レポートは授業内で返却して解説、テストは採点後に個別返却にて不足点を補う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	定期試験にて60点以上の学生に単位を認定する。なお、再々試験までの実施とする。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
子ども家庭支援論		専門教育 科目	講義	2	S205		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
齋藤 征人		2	前期	選択	幼	保	社
					◎		
授業概要	子どもとその家庭の理解を深め、子育て家庭への支援に関する保育士としての基本姿勢や支援の内容、実践方法、技術等を学ぶ。						
到達目標	保育の現場で働くことを目指す者として「家庭」について理解できる。 子どもを取り巻く生活状況の多様性を理解できる。 子どもの最善の利益を尊重した柔軟な支援について理解できる。						
授業の方法	教科書を用い、講義形式で行う。授業内で課す小レポートを提出することが単位認定の必須条件。原則として、テストの欠席は認めず代替措置も講じない。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	教科書について各回1時間程度の予習が必要、また授業内テストについては、それまでの講義内容の復習が1時間程度必要となる。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	子ども家庭支援の意義と必要性	9	家庭の状況に応じた支援				
2	子ども家庭支援の目的と機能	10	地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力				
3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	11	子ども家庭支援の内容と対象				
4	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	12	保育所等を利用する子どもの家庭への支援				
5	保育の専門性を活かした子ども家庭支援	13	地域の子育て家庭への支援				
6	子どもの育ちの喜びの共有	14	要保護児童およびその家庭に対する支援				
7	保護者・地域が有する子育て実践力の向上	15	子育て支援に関する課題と展望				
8	保育者に求められる基本的態度						
教科書・参考文献	松原康雄・村田典子・南野奈津子編（2019）『子ども家庭支援論』中央法規						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	適宜講義中に紹介する。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	定期試験(60%)、提出されたレポート等の課題評価(40%)。						
実務経験と担当科目内容との関連	経験あり 社会福祉法人に勤務し、ソーシャルワークにたずさわった経験をもとに、支援の現場で求められる知識・技術について実践的な学びを深める						

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育原理Ⅱ		専門教育 科目	講義	2	S105		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
藤村 敦		2	後期	選択	幼	保	社
					◎		
授業概要	保育所保育指針における保育の基本、保育の目標と方法に焦点をあて、その内容について理解を深めるとともに、その実際について学びを深める。 保育所保育指針の内容と他の授業の内容との関連について学ぶ。						
到達目標	保育原理の中でも、主に保育所保育指針における保育の基本、保育の目標と方法に焦点をあて、子ども理解と保育内容の具体等について理解を深める。						
授業の方法	主に講義形式で行い、教科書（保育所保育指針）を用いて、保育の基本、目標と方法等を理解する学習や、保育の基本と他の授業での学習内容とを関連付ける学習を行う。発達や保育内容についての理解度を確認するために、小テストを2回行うとともに、各講義において学習した内容を実際の保育場面に当てはめて考えるための演習課題を行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業で扱うテーマについて、事前に教科書を読んでおいてください(30分程度)。授業後に配布プリント、教科書を基に、授業内容を振り返り、学んだことについて、実際の保育場面に当てはめて説明することができるよう復習してください(30分程度)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション、保育の意義	9	乳幼児理解と保育の計画②				
2	乳幼児の遊びと指導①	10	健康及び安全に関する指導①、小テスト1回目				
3	乳幼児の遊びと指導②	11	健康及び安全に関する指導②				
4	乳幼児の遊びと指導③	12	保護者に対する支援、小テスト2回目				
5	乳幼児期の発達と保育内容①	13	保育の現状と課題①				
6	乳幼児期の発達と保育内容②	14	保育の現状と課題②				
7	乳幼児期の発達と保育内容③	15	講義内容の振り返り				
8	乳幼児理解と保育の計画①						
教科書・参考文献	保育所保育指針解説（フレーベル館）厚生労働省編						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内演習課題については、次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し、振り返りを行うとともに、それについて解説を行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内演習課題（70%）、授業内小テスト（30%）を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。						
実務経験と担当科目内容との関連	義務教育学校での指導経験のある教員が、具体的な事例を基にして授業を行う。						

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
社会的養護Ⅱ		専門教育 科目	演習	1	S107		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
藤村 敦		2	前期	選択	幼	保	社
					◎		
授業概要	プリントを用いて社会的養護の実際について理解を深め、個々の児童・保護者の実態を把握するための多面的な視点について学ぶ。 得られた多面的な視点を基にして、具体的な支援を考える演習を行う。						
到達目標	社会的養護の実際について理解を深めるとともに、個々の児童・保護者の実態を把握するための多面的な視点を得ることができる。さらに、事例について、多面的な視点で適切な実態把握を行い、それを基にして、具体的な支援計画を作成することができる。						
授業の方法	主に講義形式で行い、プリントを用い、様々な事例を基にして社会的養護の実際を理解する学習を行う。また、各講義では、事例に登場する児童・保護者に対しての具体的な対応について考える演習も行う。授業の最後にはグループワークを行い、具体的な支援計画を作成する演習も行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業後に配布プリントや参考文献を基に、授業内容を振り返り、社会的養護の実際について理解を深めるとともに、学んだ視点を事例に当てはめて考えることができるよう復習してください(30分程度)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション(社会的養護の対象者)	9	社会的養護の内容②(治療的支援)				
2	施設養護の実際①(乳児院を中心に)	10	社会的養護雄内容③(自立支援)				
3	施設養護の実際②(児童養護施設を中心に)	11	支援計画の評価と改善, ジェノグラム				
4	施設養護の実際③(障がい児入所施設を中心に)	12	社会的養護等の課題				
5	社会的養護における倫理及び責務	13	社会的養護にかかわる専門技術①				
6	家庭養護の実際	14	社会的養護にかかわる専門技術②				
7	アセスメントと支援計画の作成(概要の理解)	15	社会的養護にかかわる専門技術③				
8	社会的養護の内容①(日常生活支援)						
教科書・参考文献	適宜資料を配布する。参考文献：社会的養護Ⅱ(中央法規)相澤仁・村井美紀・大竹智編						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内演習課題については、次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し、振り返りを行うとともに、それについて解説を行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内演習課題(50%)、グループワークを基に作成するレポート(50%)を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。						
実務経験と担当科目内容との関連	義務教育学校での指導経験のある教員が、具体的な事例を基にして授業を行う。						

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育実習指導Ⅱ		専門教育 科目	演習	1	S402		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
藤村 敦		2	前期	選択	幼	保	社
					◎		
授業概要	教科書やプリントを用いて、保育実習Ⅱの目的や具体的内容、方法を学ぶ。実習に必要な多様な視点や、実習内容と他の授業内容との関連について学ぶ。						
到達目標	保育実習Ⅱの目的が分かり、その具体的内容や方法を理解する。また、これまでの様々な授業で学んだことを生かし、子どもの実態に則した指導案を具体的に作成することができる。						
授業の方法	主に講義形式で行い、教科書（保育指針解説等）、プリントを用いながら、保育への理解を深める学習を行う。授業の途中にはグループワークを行い、具体的な指導案を作成する演習等を行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業後に配布プリント、教科書（保育指針解説等）を基に、授業内容を振り返り、学んだ内容について、実施の保育実習に当てはめて考えることができるよう復習してください（1時間程度）。						
履修条件	保育実習指導Ⅰ（保育所）を履修済。						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション、保育実習Ⅱの位置付け	9	指導計画の作成①				
2	実習の目的と実際	10	指導計画の作成②				
3	保育所の役割と機能①	11	事例を基にしたグループワーク①				
4	保育所の役割と機能②	12	事例を基にしたグループワーク②				
5	実習Ⅱの総合的な学び①（家庭支援を中心に）	13	保育士の業務と職業倫理				
6	実習Ⅱの総合的な学び②（地域連携を中心に）	14	自己課題の明確化と実習日誌				
7	保育の全体計画に基づく具体的計画と実践	15	評価とまとめ				
8	保育の観察と記録						
教科書・参考文献	保育実習（中央法規）近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子編、保育所保育指針解説（フレーベル館）厚生労働省編、参考文献：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）内閣府・文部科学省・厚生労働省編						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内演習課題については、次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し、振り返りを行うとともに、それについて解説を行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内演習課題（50%）、レポート（50%）を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。保育実習Ⅱと連携させており、保育実習Ⅱが不可の場合は単位が認定されない。						
実務経験と担当科目内容との関連	特別支援学校での指導経験のある教員が、具体的な事例を基にして授業を行う。						

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育実習指導Ⅲ		専門教育 科目	演習	1	S403		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
阿部千春		2	前期	選択	幼	保	社
					◎		
授業概要	保育実習Ⅰにおける社会福祉施設での現場実習を踏まえ、より実践的で総合的な視点から施設の機能や役割、現状、保育士の役割と他職種との連携、利用児(者)について理解を深められるようにします。						
到達目標	施設の機能や役割、専門職としての保育士の職務と職業倫理について具体的に理解できることを目的とします。						
授業の方法	講義資料を用いて、講義形式で行います。また、グループワークやグループディスカッションなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習を行います。提出課題は単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	事前学習として、自分が行く実習施設について詳しく調べ、必要な知識や技術を身につけ、明確な課題意識を持って実習に臨めるようにします。						
履修条件	保育実習指導Ⅰ(施設)を履修済。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	障害児(者)関係施設の役割と機能③				
2	保育実習Ⅲの目的と内容	10	チーム支援				
3	社会的養護施設の役割と機能①	11	施設で行う家族療法とペアレント・トレーニング				
4	社会的養護施設の役割と機能②	12	援助者のメンタルヘルス				
5	社会的養護施設の役割と機能③	13	リービングケアと自立支援①				
6	社会的養護施設の役割と機能④	14	リービングケアと自立支援②				
7	障害児(者)関係施設の役割と機能①	15	職場内研修				
8	障害児(者)関係施設の役割と機能②	16	評価とまとめ				
教科書・参考文献	教科書：守巧他著「施設実習パーフェクトガイド」わかば社、全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会編「保育実習ガイドライン(福祉施設実習編)」、参考文献：駒井美智子他著「施設実習ガイド」萌文書林						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	提出した課題について、所見をつけて返却します。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」に該当する科目です。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	成績評価は、提出されたレポート等の課題(70%)、授業後に提出する感想カード(30%)によって総合的に評価し、単位を認定します。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育実習Ⅰ（保育所）		専門教育 科目	実習	※	S404		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
池田 隼・太田 望・藤村 敦		1・2	集中	選択	幼	保	社
					◎		
授業概要	保育実習指導Ⅰ及びこれまで学んだ知識・技術を基礎として保育所での活動に参加し、乳幼児に対する理解や保育所の役割、保育士の職務等について学ぶ。						
到達目標	これまでの大学での学びを生かして、積極的に保育所での活動に参加し、乳幼児の発達や保育内容、保育環境、保育士の職務等について実践的に理解する。						
授業の方法	保育所にて10日間以上と社会福祉施設にて10日間以上、合計20日間以上の必修実習となります。実習日誌等の提出は単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	保育実習指導Ⅰを受講し、実習に必要な知識をつけておくとともに、保育実習指導Ⅰで指定された準備を行っておくこと。						
履修条件	実習前に開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修できない場合がある。						
授 業 計 画							
1	保育所保育実習	9	保育所保育実習				
2	保育所保育実習	10	保育所保育実習				
3	保育所保育実習	11	保育所保育実習				
4	保育所保育実習	12	保育所保育実習				
5	保育所保育実習	13	保育所保育実習				
6	保育所保育実習	14	保育所保育実習				
7	保育所保育実習	15	保育所保育実習				
8	保育所保育実習						
教科書・参考文献	保育実習（中央法規）近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子編、保育所保育指針解説（フレーベル館）厚生労働省編						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	面談を行い、これまでの実習や日誌の記述内容についての振り返りを行うとともに、今後の課題に関する共通理解を行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	保育所からの評価（70%）、実習日誌（30%）を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。 ※単位は保育実習Ⅰ（施設）と合わせて4単位とする。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育実習 I (施設)		専門教育 科目	実 習	※	S404		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
阿部 千春・土谷 育代		1・2	集 中	選 択	幼	保	社
					◎		
授業概要	保育実習 I における社会福祉施設での現場実習を踏まえ、より実践的で総合的視点からの施設機能や役割、利用児(者)への理解を深めます。						
到達目標	社会福祉施設での実習を通して、保育士として必要な知識や技術を習得することを目的とします。						
授業の方法	保育所にて 10 日間と社会福祉施設にて 10 日間、合計 20 日間の必修実習となります。実習日誌とレポート、自己評価表の提出は単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	事前学習として、自分が行く実習施設について詳しく調べ、必要な知識や技術を身につけ、明確な課題意識を持って実習に臨めるようにします。実習に備え、実習中の健康管理に留意し、体調を万全に整えて実習に臨めるようにします。						
履修条件	実習前に開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修できない場合があります。						
授 業 計 画							
1	福祉施設実習	9	福祉施設実習				
2	福祉施設実習	10	福祉施設実習				
3	福祉施設実習	11	福祉施設実習				
4	福祉施設実習	12	福祉施設実習				
5	福祉施設実習	13	福祉施設実習				
6	福祉施設実習	14	福祉施設実習				
7	福祉施設実習	15	福祉施設実習				
8	福祉施設実習						
教科書・参考文献	教科書：守巧他著「施設実習パーフェクトガイド」わかば社、全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会編「保育実習ガイドライン(福祉施設実習編)」、参考文献：駒井美智子他著「施設実習ガイド」萌文書林						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	実習施設からの評価表と実習日誌、レポート、自己評価表(ルーブリック評価)を用い、事後指導のための面談を行います。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「2」「4」に該当する科目です。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「3」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	成績評価は、実習施設からの評価(50%)、実習日誌(30%)、レポート(20%)を基に総合的に評価して、単位を認定します。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育実習Ⅱ（保育所）		専門教育 科目	実習	2	S405		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
池田 隼・太田 望・藤村 敦		2	集中	選択	幼	保	社
					◎		
授業概要	保育実習Ⅰで学んだ知識・技術を基礎として保育所での活動に幅広く参加し、保育所の役割や保育士の職務等について、より実践的で総合的な理解を深める。						
到達目標	保育所での活動に参加し、乳幼児の発達や保育内容、保育環境、保育士の職務等についてより実践的・総合的に理解することができる。また、自らの指導計画を作成したり、地域社会との連携等、幅広い視点で保育所の活動を理解したりすることができる。						
授業の方法	保育所にて10日間以上と社会福祉施設にて10日間以上、合計20日間以上の必修実習となります。実習日誌の提出は単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	保育実習指導Ⅱを受講し、実習に必要な知識をつけておくとともに、保育実習指導Ⅱで指定された準備を行っておくこと。						
履修条件	実習前に開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修できない場合がある。						
授 業 計 画							
1	保育所保育実習	9	保育所保育実習				
2	保育所保育実習	10	保育所保育実習				
3	保育所保育実習	11	保育所保育実習				
4	保育所保育実習	12	保育所保育実習				
5	保育所保育実習	13	保育所保育実習				
6	保育所保育実習	14	保育所保育実習				
7	保育所保育実習	15	保育所保育実習				
8	保育所保育実習						
教科書・参考文献	保育実習（中央法規）近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子編、保育所保育指針解説（フレーベル館）厚生労働省編						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	実習後の保育実習指導Ⅱの授業内において、実習内容についての振り返りを行い、今後の課題を見出す学習を行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	保育所からの評価（70%）、実習日誌及び指導案（30%）を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育実習Ⅲ(施設)		専門教育科目	実習	2	S406		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
阿部 千春 ・ 土谷 育代		2	集中	選択	幼	保	社
					◎		
授業概要	保育実習Ⅰにおける社会福祉施設での現場実習を踏まえ、より実践的で総合的視点からの施設機能や役割、対象児(者)への理解を深めます。						
到達目標	社会福祉施設での実習を通して、保育士として必要な知識や技術を習得することを目的とします。						
授業の方法	社会福祉施設にて10日間の選択必修実習となります。実習日誌とレポート、自己評価表の提出は単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等及び必要時間(分)	事前学習として、自分が行く実習施設について詳しく調べ、必要な知識や技術を身につけ、明確な課題意識を持って実習に臨めるようにします。実習に備え、実習中の健康管理に留意し、体調を万全に整えて実習に臨めるようにします。						
履修条件	実習前に開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修できない場合があります。						
授 業 計 画							
1	福祉施設実習	9	福祉施設実習				
2	福祉施設実習	10	福祉施設実習				
3	福祉施設実習	11	福祉施設実習				
4	福祉施設実習	12	福祉施設実習				
5	福祉施設実習	13	福祉施設実習				
6	福祉施設実習	14	福祉施設実習				
7	福祉施設実習	15	福祉施設実習				
8	福祉施設実習						
教科書・参考文献	教科書：守巧他著「施設実習パーフェクトガイド」わかば社、全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会編「保育実習ガイドライン(福祉施設実習編)」、参考文献：駒井美智子他著「施設実習ガイド」萌文書林						
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	実習施設からの評価表と実習日誌、レポート、自己評価表(ルーブリック評価)を用い、事後指導のための面談を行います。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「2」「4」に該当する科目です。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「3」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	成績評価は、実習施設からの評価(50%)、実習日誌(30%)、レポート(20%)を基に総合的に評価して、単位を認定します。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
子どもの保健		専門教育 科目	講義	2	S206		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
小杉 あゆみ ・ 齋藤 眞樹		2	後期	必修	幼	保	社
						◎	
授業概要	子どもは自ら育つ力があるが、未成熟な子どもを援助して成熟へ向かわせる支援が必要である。子供の成長・発達は一様ではないが、正常や標準を理解する。身体と精神の発達に関わる保育者としての役割を学ぶ。						
到達目標	子どもの誕生から幼児期までの心身の成長過程を理解する。						
授業の方法	講義中心であるが、グループ演習を組み合わせて行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業の予定と終了後に教本の復習60分程度必要						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーションとシラバスの説明	9	子どもの生理機能の発達 ②				
2	子どもの誕生までの過程と母子保健の重要性	10	子どもの運動機能の発達				
3	健康に関する母子保健統計	11	子どもの精神機能の発達				
4	出産と新生児の発育とリスク	12	保育の環境整備と環境衛生				
5	子どもの身体発育① 母子手帳	13	母子保健政策				
6	子どもの身体発育②	14	子どもの成長に関わる地域と施設				
7	子どもの身体発育③ 発育評価	15	全体を通してのまとめ				
8	子どもの生理機能の発達 ①						
教科書・参考文献	保育・教育ネオシリーズ21 子どもの保健 同文書院						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	課題レポートの提出と小テストを行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「2」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	課題レポート提出と筆記試験の合計点が60点以上で合格						
実務経験と担当科目内容との関連	看護師としての実務経験と看護学校の教員として経験がある。広く保健について精通している教員が授業を行う。						

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
子どもの健康と安全		専門教育 科 目	演 習	1	S208		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
葛西 真理子		2	後 期	必 修	幼	保	社
					◎		
授業概要	子どもの保健で基礎を学び、更に疾病や事故などへ発展させて学んでいく。 保育士に求められる役割は多岐にわたり、様々な事故・事例から一連を学ぶ。						
到達目標	子どもの疾病や事故などに対応することが求められる。時事問題を取り上げて、実際への対応を 応用できる知識・演習を身に着け職業へとつなげる。						
授業の方法	講義と演習を組み合わせる						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業の予定と終了後に教本の復習60分程度必要						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーションとシラバスの説明	9	感染症と予防接種				
2	子どもの健康と安全の意義	10	子どもの事故と対応				
3	子どもの健康状態と観察	11	事故の事例から学ぶ				
4	子どもに多い病気と症状の対処①	12	救急法の実際				
5	子どもに多い病気と症状の対処②	13	災害と保育士の役割				
6	衛生管理と感染症	14	地域と保育園と保育士の役割				
7	子どもに多い感染症①	15	全体を通してのまとめ				
8	子どもに多い感染症②						
教科書・参考文献	子どもの保健 —理論と実際—						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	保育現場での演習授業でのレポート提出、グループワーク等でフィードバックする。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「2」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	課題レポート提出と筆記試験の合計点が60点以上で合格						
実務経験と担当科目内容との関連	こども園園長が実際の保育現場での実務経験を交え授業を行う。						

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
特別支援教育「基礎」		専門教育 科目	演習	2	S108		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
藤村 敦		2	前期	選択	幼 ◎	保 ◎	社
授業概要	プリントを用いて様々な障がいの診断基準や特徴、及びそれに対応する支援の実際について学ぶ。様々な事例等を基に、子どもや保護者への具体的な支援方法について考える演習を行う。						
到達目標	様々な障がいとそれに対応する支援の実際について理解を深めるとともに、様々な事例等を基に、子どもや保護者への具体的な支援について考え、具体的な支援計画を考えることができる。						
授業の方法	主に講義形式で行い、プリントを用いて様々な障がいやその支援の実際を理解する学習を行う。また、各講義では、事例などを基にして障がいのある子どもへの具体的な対応について考える演習も行う。様々な障がいの具体についての理解の程度を確認するために小テストを2回行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業で扱う各障がい等について、予め参考文献やインターネットで調べ、概要を理解しておいてください(30分程度)。授業後に配布プリントや参考文献を基に、授業内容を振り返り、学んだ各障がいの具体とその対応について理解をさらに深めるとともに、学んだ支援方法を事例に当てはめて考えることができるよう復習してください(30分程度)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション(障がいとは)	9	個々の発達を促す支援の在り方②(自立活動を中心に)				
2	知的障がい児の理解と援助	10	個別の指導計画の作成①				
3	発達障がい児(自閉スペクトラム症)の理解と援助	11	個別の指導計画の作成②				
4	発達障がい児(AD/HD, LD)の理解と援助	12	クラス及び園全体での指導の枠組み、小テスト1回目				
5	障がいはないが、特別的教育的ニーズのある子どもの理解と援助	13	保護者・家庭への支援				
6	視覚障がい・聴覚障がい児の理解と援助	14	家庭及び関連機関との連携、小テスト2回目				
7	肢体不自由・病虚弱児の理解と援助	15	障がい児保育の歴史と現状・課題				
8	個々の発達を促す支援の在り方①(応用行動分析)						
教科書・参考文献	適宜資料を配布する。参考文献：障害児保育(中央法規)西村重稀・水田敏朗編						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内演習課題、小テストについては、次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し、振り返りを行うとともに、それについて解説を行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「2」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内演習課題(60%)、授業内小テスト(40%)を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。						
実務経験と担当科目内容との関連	特別支援学校での指導経験のある教員が、具体的な事例を基にして授業を行う。						

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
教育カウンセリング		専門教育 科 目	講 義	2	S109		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
阿 部 千 春		2	前 期	選 択	幼	保	社
					◎		
授業概要	さまざまな対人援助場面でのコミュニケーションのあり方や援助のしかた、個と集団を捉える意義と方法について教科書や体験を通して学びます。						
到達目標	教育カウンセリングに関する基礎的な知識を習得することをめざします。						
授業の方法	教科書と講義資料を用い、講義を行った後で、グループワークなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習を行います。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んで予習してください。(30分程度) 授業後は、教科書や講義資料、関連する書籍を読むなどして、復習してください。(30分程度)						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	不登校の理解と対応				
2	教育カウンセリング概論	10	いじめの理解と対応				
3	発達の理論	11	問題行動の理解と対応				
4	構成的グループエンカウンター <small>の原理</small>	12	学級経営				
5	構成的グループエンカウンター <small>の実際</small>	13	保護者対応				
6	アサーション・トレーニングの考え方と実際①	14	教師のメンタルヘルス				
7	アサーション・トレーニングの考え方と実際②	15	講義総括				
8	キャリアガイダンス						
教科書・参考文献	教科書：NPO 日本教育カウンセラー協会編「新版 教育カウンセラー標準テキスト 初級編」図書文化、参考文献：NPO 日本教育カウンセラー協会編「新版 教育カウンセラー標準テキスト 中級編」図書文化						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	テスト解説を行うことで、誤答問題の見直しができるようにします。また、具体的な学習方法について提示します。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」に該当する科目です。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	成績評価は、授業内試験(80%)、授業後に提出する感想カード(20%)によって総合的に評価し、単位を認定します。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育者・教師論		専門教育 科目	講義	2	S111		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
毛利悦子		2	後期	選択	幼 ◎	保 ◎	社
授業概要	幼児教育における保育者及び教師の役割を、事例をもとに探求する。						
到達目標	保育者・教師としての使命感、社会的責任感、を自覚し目指す保育者・教師像を小論文にまとめる。						
授業の方法	担当教員作成資料、ビデオ等補助教材を用いて講義・演習方式で行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	毎回の振り返りに1時間程度必要、予習に30分程度必要。 小論文作成のため資料収集、研究に相当時間が必要。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス 日本の幼児教育を築いてきた先人たち	9	保護者や家庭とともに歩む保育者、教師 ③説明責任と情報公開				
2	法の規定と社会の要請における保育者の役割	10	保護者や家庭とともに歩む保育者、教師 ④地域社会との人的交流や連携の意義				
3	乳幼児の求める保育者・教師 ① 思いや育ちを読みとる目	11	保護者や家庭とともに歩む保育者、教師 ⑤園内外の連携と方法				
4	乳幼児の求める保育者 ② カウンセリングマインドをもった援助	12	チーム園運営への対応の理解 ① 組織としての園運営の理解				
5	乳幼児の求める保育者・教師 ③ 行動の理解と記録の構築	13	チーム園運営への対応の理解 ② 子育てを支援するための組織的連携の理解				
6	乳幼児の求める保育者・教師 ④ 保育者、教師研修	14	グループ協議 目指す保育者・教師像				
7	保護者や家庭とともに歩む保育者・教師 ①理解	15	グループ協議 保育者・教師の使命と社会的責任				
8	保護やう家庭とともに歩む保育者・教師 ②援助						
教科書・参考文献	「保育現場のリスクマネジメント」監修 社会福祉法人 日本保育協会						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	小論文については、テーマ設定、関連資料の紹介、助言などを個別に行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目です。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	小論文(100%)						
実務経験と担当科目内容との関連	前職(幼稚園教諭・教頭・園長)時の論文・研究発表資料等を資料及び教材として使用する。 又、経験で得た事例や内容を伝える。						

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
教育財政学		専門教育 科目	講義	1	S114		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
乳井英雄		2	前期	選択	幼 ◎	保	社
授業概要	①公教育の理念と教育財政 ②学校運営と教育財政 ③地域と学校の連携 ④教育制度改革 ⑤危機管理と学校安全						
到達目標	財政制度や教育財政の仕組みを理解できるようになる。また、学校安全や安全管理の基本的な考え方を理解できるようになる。						
授業の方法	補助教材を利用して、講義形式と演習形式を織り交ぜる。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	文献を一読すること(30分)。講義内容を振り返り疑問点を考える(30分)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	公教育の理念(オリエンテーション含む)	9	学校の役割と地域社会				
2	教育制度の基本	10	地域連携と学校				
3	財政の意味と理念	11	家庭経済と教育財政の関わり				
4	教育財政の仕組み	12	税制と教育制度				
5	現代社会における教育制度の諸問題	13	教育制度の海外比較				
6	教育制度改革とは	14	危機管理と安全教育				
7	学校経営の仕組み	15	教育現場における安全				
8	学校運営の評価と改善						
教科書・参考文献	「学校経営」 小島弘道						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	レポートは授業内で返却して解説、テストは採点後に個別返却にて不足点を補う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目です。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	期試験にて60点以上の学生に単位を認定する。なお、再々試験までの実施とする。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育内容研究Ⅰ(人間関係)		専門教育 科目	演習	2	S310		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
乳井英雄		2	後期	必修	幼 ◎	保 ◎	社
授業概要	①領域「人間関係」とは ②教育要領と領域「人間関係」 ③他者との関わりと発達 ④共同作業・ディスカッション						
到達目標	領域「人間関係」のねらいや内容が理解できる。また、協同性や他者との関係性からの発達を理解して実践できる。さらに、現代社会と人間関係の諸問題を探求できる。						
授業の方法	補助教材を利用して、講義形式と演習形式を織り交ぜる。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	指定文献を一読すること(30分)。講義内容を振り返り疑問点を考える(30分)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	人間関係とは(オリエンテーション含む)	9	地域社会と幼少接続				
2	幼稚園教育要領の領域「人間関係」を理解する	10	幼稚園生活における人間関係の実際				
3	発達と集団教育の展開	11	現代社会と人間関係				
4	他者と係わる力の発達Ⅰ	12	人間関係における課題の発見と整理				
5	他者と係わる力の発達Ⅱ	13	領域「人間関係」の指導に向けてⅠ				
6	集団遊びと個人遊びⅠ	14	領域「人間関係」の指導に向けてⅡ				
7	集団遊びと個人遊びⅡ	15	全体ディスカッションとまとめ				
8	集団行動と人間関係						
教科書・参考文献	幼稚園教育要領 「保育内容人間関係」 榎沢良彦						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	レポートは授業内で返却して解説、テストは採点后に個別返却にて不足点を補う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目です。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	定期試験にて60点以上の学生に単位を認定する。なお、再々試験までの実施とする。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育内容研究Ⅳ（健康）		専門教育科目	演習	2	S313		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
池田隼		2	前期	必修	幼	保	社
					◎	◎	
授業概要	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された「健康」の領域について理解を深め、幼児期の発育発達と運動の役割について学ぶ。また、それらを踏まえ具体的な場面を想定して指導案を作成し、保育を構想する視点を学ぶ。						
到達目標	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された「健康」の領域の視点から基本的知識を身につけ、幼児を取り巻く環境の変化がこころとからだに及ぼす影響について理解する。また、実際の場面を想定して保育を構想する視点を養うことを目的とする。						
授業の方法	主に講義形式で行う。また、プリントをもとに進め、講義内容に沿ったレポートを提出し理解度を確認する。さらに、授業後半では、指導案の作成・模擬保育を行う。						
予習・復習等及び必要時間(分)	配布資料を読み込み、授業内容を理解すること。(1時間程度) 指導案の作成・模擬保育の準備を行うこと。(2時間程度)						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション	9	遊びとしての運動				
2	乳幼児期の健康課題	10	指導案作成①				
3	乳幼児の身体の発達の特徴	11	指導案作成②				
4	乳幼児期の生活習慣の形成	12	模擬保育①				
5	幼児の安全教育と危機（リスクとハザード）	13	模擬保育②				
6	幼児期の怪我や事故の特徴と応急処置・病気の予防	14	保育・幼児教育における評価・振り返り				
7	乳幼児期の運動発達の特徴	15	小学校教育との接続				
8	日常生活における運動						
教科書・参考文献	資料を配布						
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	単元ごとのレポートの内容についてフィードバックを行う。また、単元ごとの講義の要点を再確認し理解を深める。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内テスト（40%）（授業内テスト2回（20点×2）の受験を必須とする）、提出されたレポート等の課題評価（20%）、定期試験（40%）を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育内容研究Ⅴ(表現)		専門教育 科目	演習	2	S314		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
太田 望		2	前期	必修	幼 ◎	保 ◎	社
授業概要	「表現」の領域の観点で、子どもが「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことができるように、支援する力を身に付ける。						
到達目標	今までの「表現」の領域の学びを基礎として、グループワークを通して、表現活動に関する知識や考え方、支援方法を習得することができる。						
授業の方法	実技を中心とした授業であり、遊びの中から、子どもの表現を考え、ドキュメンテーション作りやグループワークを行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	日頃から様々な素材や表現について考え、保育・幼児教育、福祉と結びつくようにしておく(30分程度)。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	子どもの表現活動[散歩を楽しむ](オリエンテーションを含む)	9	ドキュメンテーション作り[糸電話]				
2	子どもの表現活動[新聞紙で遊ぶ]	10	グループワーク[領域「表現」での教材研究]				
3	ドキュメンテーション作り[新聞紙で遊ぶ]	11	グループワーク[領域「表現」での教材研究]				
4	子どもの表現活動[紙コップで遊ぶ]	12	グループワーク[領域「表現」での教材研究]				
5	ドキュメンテーション作り[紙コップで遊ぶ]	13	グループワーク[領域「表現」での教材研究]				
6	子どもの表現活動[リトミック・音の鳴るもの]	14	グループワークによる教材研究の成果発表				
7	ドキュメンテーション作り[リトミック・音の鳴るもの]	15	グループワークによる教材研究の成果発表、				
8	子どもの表現活動[糸電話]						
教科書・参考文献	『ふしぎだね。きれいだね。たのしいね。体験から学ぶ領域「環境」「表現」に関する専門的事項』(学校図書)						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	オフィスアワーにて随時受け付ける。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「3」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	指導案(40%)、提出されたレポート(60%)等を総合的に評価する。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育内容指導Ⅰ（健康）		専門教育科目	演習	2	S315		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
池田隼		2	後期	選択	幼	保	社
					◎	◎	
授業概要	幼児期における運動遊びの重要性や指導・支援のあり方、環境設定について理解を深め、指導案の作成、模擬授業を行う。また、模擬保育の振り返りを情報機器および視聴覚教材を効果的に活用し、保育実践の評価方法についての視点を学ぶ。						
到達目標	幼児期における運動遊びの重要性や指導・支援のあり方、環境設定について理解を深める。また、具体的な指導場面を想定して保育を構成する方法や保育実践の評価方法について学び深めることを目的とする。						
授業の方法	主に講義形式で行う。また、プリントをもとに進め、講義内容に沿ったレポートを提出し理解度を確認する。さらに、授業を通して指導案の作成・模擬保育を行う。						
予習・復習等及び必要時間(分)	配布資料を読み込み、授業内容を理解すること。(1時間程度) 指導案の作成・模擬保育の準備を行うこと。(2時間程度)						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション	9	多様な動きの経験を促す援助				
2	保育における「健康」とは	10	心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助				
3	基本的な生活習慣の形成を支える援助	11	健康な心と体を育む保育の構想（計画立案Ⅱ）				
4	健康管理と安全能力を育む援助	12	健康な心と体を育む保育の構想（教材研究Ⅱ）				
5	健康な心と体を育む保育の構想（計画立案Ⅰ）	13	健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育Ⅱ）				
6	健康な心と体を育む保育の構想（教材研究Ⅰ）	14	健康な心と体を育む保育の評価と改善Ⅱ				
7	健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育Ⅰ）	15	幼児期に育まれる健康な心と体と小学校との連携				
8	健康な心と体を育む保育の評価と改善Ⅰ						
教科書・参考文献	資料を配布						
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	単元ごとのレポートの内容についてフィードバックを行う。また、単元ごとの講義の要点を再確認し理解を深める。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	模擬保育（60%）、指導案（20%）、提出されたレポート等の課題評価（20%）を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育内容指導Ⅱ（人間関係・言葉・表現）		専門教育 科 目	演 習	2	S316		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
村田 あきの		2	後 期	選 択	幼	保	社
					◎	◎	
授業概要	乳幼児の豊かな言語体験に寄与できる保育者となるために、言葉を中心とした児童文化財に関する知識を深める。さらに、児童文化財をもちいた遊びの展開について自ら考え、表現力を豊かにし、技術を身につける。						
到達目標	1. 様々な児童文化財の知識を身につけ特性を理解する。 2. 児童文化財を保育の現場で実践するための技術を習得する。 3. 言葉を通して主体的に活動・表現ができる保育者になる。						
授業の方法	授業冒頭で概説後、グループまたは個人でディスカッション・制作・練習等を行う。各回で課題やふり返りを課すため、ワークシートに記入し提出すること。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	・テキストの指定部分を事前に読む（15分） ・制作や発表の準備・練習（1時間程度） ・日常的に乳幼児の絵本・歌などに興味を持ち、積極的に触れるよう努力すること。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション 児童文化財とは	9	おはなし（3）実際に演じる				
2	人間と言葉	10	紙芝居（1）				
3	乳幼児期の言葉の獲得	11	紙芝居（2）				
4	言葉の豊かさ	12	絵本の基礎知識・特性・構成要素				
5	言葉遊び（1）子どもと言葉遊び	13	絵本の読み聞かせ（1）読み聞かせの基本				
6	言葉遊び（2）言葉遊びの実際	14	絵本の読み聞かせ（2）実際に演じる				
7	おはなし（1）来歴と子どもの育ち	15	絵本の読み聞かせ（3）ふり返り				
8	おはなし（2）お話の実際						
教科書・参考文献	<b>【教科書】</b> 馬見塚昭久・小倉直子（2022）『保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法』ミネルヴァ書房 <b>【参考文献】</b> 古橋和夫 編著（2016）『保育者のための言語表現の技術-子どもとひらく児童文化財をもちいた保育実践』萌文書林						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	各回で回収したワークシートには必要に応じてフィードバックを行う。グループでの活動や発表時には個別もしくは全体にコメントや指導を行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	ワークシート 70% 発表や実演 30%						
実務経験と担当 科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
教育実習事前事後指導		専門教育 科目	演習	※	S407		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
乳井 英雄		2	前期	選択	幼 ◎	保	社
授業概要	①教育実習の目的 ②教育実習への心構え ③実習日誌について ④指導案について ⑤自己研究						
到達目標	教育実習の目的、内容、心構え等を理解できるようになる。また、実習日誌や指導案等の準備、作成が出来るようになる。						
授業の方法	補助教材を利用して、講義形式と演習形式を織り交ぜる。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	文献を一読すること(30分)。講義内容を振り返り疑問点を考える(30分)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	指導案の理解 I				
2	教育実習の目的と内容 I	10	指導案の理解 II				
3	教育実習の目的と内容 II	11	指導案の理解 III				
4	教育実習の目的と内容 III	12	実習に向けての自己研究 I				
5	心構えと準備 I	13	実習に向けての自己研究 II				
6	心構えと準備 II	14	実習中指導とは				
7	実習日誌の理解 I	15	実習全体のまとめと実習後指導について				
8	実習日誌の理解 II						
教科書・参考文献	幼稚園教育要領 教育実習ハンドブック						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	レポートは授業内で返却して解説する。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	教育実習の単位と連携させており、教育実習が不可の場合は、この単位も認定されない。 ※1年次、教育実習事前事後指導と合わせて1単位となる。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
教育実習		専門教育科目	実習	3	S408		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
実習担当者		2	集中	選択	幼	保	社
					◎		
授業概要	幼稚園及び認定こども園において、学内で学習した専門分野での理論や技術に基づき、教育実践を進め、幼児理解、指導計画の立案、及び環境構成・援助の実際についての学びを深める。又、職務の実際に触れ教師(保育者)としての使命感や社会的責任意識を高めるとともに、まとめの学習に意欲をもち、進路選択及び決定に生かしていく。						
到達目標	子どもたちとのふれあいを通して教師(保育者)としての喜びと誇りを体感し、理論の深化及び実践力の向上のための学習を継続して意欲的に行う。						
授業の方法	幼稚園・幼保連携型認定こども園にて所定の時間実習を行う。 実習日誌等の提出は単位認定の必須条件。						
予習・復習等及び必要時間(分)	毎日の振り返りと記録2時間程度と準備に1時間程度必要						
履修条件	教育実習(本実習)は、実習前において開講している学則必修科目および幼稚園教諭二種免許状取得科目に関して未履得がある場合、または修得見込みが立たない場合は教育実習(本実習)を履修することはできない。 学科科目の単位修得状況が不良の場合、本実習の履修が不許可になる場合がある。						
授 業 計 画							
まず、1年次に本学付属幼稚園にて基本実習(こども園・幼稚園体験活動)を行います(1単位) 次に2年次に市内または地方の幼稚園・幼保連携型認定こども園にて本実習を行います(3単位) なお、基本実習を終了していない学生は、本実習を履修することはできません。							
教科書・参考文献							
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	園からの評価表と実習日誌、レポートを用い、事後指導のための面談を行います。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	成績評価は、実習園からの評価、実習に対する姿勢、実習日誌、レポート等により総合的に評価して、単位を認定します。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング
保育・教職実践演習(幼稚園)		専門教育科目	演習	2	S410
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格
毛利悦子		2	後期	選択	幼保社 ◎◎
授業概要	現代における幼児教育の課題を分析し解決の方策を探求する。また実習を振り返り、その成果及び反省を生かし、協働で研究保育を行う。				
到達目標	自己課題に基づき、現代における幼児教育の課題とその方策について小論文にまとめる。子どもたちの意欲を喚起し、主体的な活動を促す保育実践を行う。				
授業の方法	教科書、担当教員作成資料、関連ビデオ等を用いた講義を行う。グループに分かれ、研究保育の指導計画立案、教材準備、環境構成をしこども園で保育実践を行う。				
予習・復習等及び必要時間(分)	小論文作成に当たってはテーマに応じた資料収集・研究に相当時間が必要。 研究保育実施に当たっては活動内容・教材研究に計画的な運営が必要になる。 毎回の振り返り1時間程度、予習に30分程度必要				
履修条件	特にありません。				
授 業 計 画					
1	ガイダンス 幼児教育の現状と課題	16	研究保育の準備(グループ活動) ①指導計画立案		
2	幼稚園教育実習を振り返る①グループ協議と発表	17	幼児教育の課題の探求と解決の方策⑥		
3	幼児教育の課題の探求と解決の方策①	18	研究保育の準備(グループ活動)②内容及び教材研究		
4	幼稚園教育実習を振り返る②個人発表と協議	19	幼児教育の課題の探求と解決の方策⑦		
5	幼児教育の課題の探求と解決の方策②	20	研究保育の準備(グループ活動)③内容及び教材研究		
6	幼稚園教育実習を振り返る③個人発表と協議	21	研究保育の準備(グループ活動)④教材準備・環境構成		
7	幼児教育の課題の探求と解決の方策③	22	研究保育の準備(グループ活動)⑤教材準備・環境構成		
8	幼稚園教育実習を振り返る④個人発表と協議	23	研究保育の準備(グループ活動)⑥教材準備・環境構成		
9	幼児教育の課題の探求と解決の方策④	24	研究保育の準備(グループ活動)⑦教材準備・環境構成		
10	幼稚園教育実習を振り返る⑤個人発表と協議	25	研究保育の準備(グループ活動)⑧教材準備・環境構成		
11	幼児教育の課題の探求と解決の方策⑤	26	研究保育の準備(グループ活動)⑨教材準備・環境構成		
12	幼稚園教育実習を振り返る⑥個人発表と協議	27	研究保育の準備(グループ活動)⑩教材準備・環境構成		
13	函館市内幼児教育施設見学と子どもとのふれあい	28	研究保育の準備(グループ活動)⑪教材準備・環境構成		
14	函館市内幼児教育施設見学と特別講義	29	研究保育実施		
15	函館市内幼児教育施設長の特別講義	30	研究保育実施		
教科書・参考文献	「遊びの指導」財団法人幼少年研究所 同文書院 「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針解説」 「保育現場におけるリスクマネジメント」監修 日本保育協会 中法規株式会社				
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	小論文につき。では、テーマ設定、関連資料の紹介、内容等を個別に指導を行う。 研究保育においては、経過の中で具体的な指導・助言を行う。」				
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。				
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」「3」に該当する科目である。				
成績評価の方法及び基準	小論文(30%) レポート(30%) 演習「研究授業」(40%)				
実務経験と担当科目内容との関連	前職(幼稚園教諭・教頭・園長)時の論文・研究発表資料等を資料及び教材として使用する。 又、経験で得た事例や内容を伝える。				

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
ピアノ表現法Ⅱ		専門教育 科 目	演 習	1	S319		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
相原千鶴子・斎藤佳子・谷藤有紀・山本和生		2	通 年	選 択	幼	保	社
授業概要	ピアノ表現法Ⅰに続き、ピアノ技術の質の向上を目的とする科目として位置づける。 保育士として必要なピアノ技術の更なる向上と自らの教職への適性を検討し、意欲を高める。						
到達目標	子どもたちの表現力豊かな感性を育める音楽環境を、子供たちと一緒に楽しめる保育者を目指す。						
授業の方法	教材を用い、個人レッスン形式で行い、音楽の基礎を修得させる。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	毎日の予習、復習を習慣づけるようにする(1時間程度)必要がある。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス・シラバス説明	16	6度・3度の重音No.77・No.78				
2	ハ長調の音階No.55・No.56	17	3連符No.79・No.80				
3	高い音の練習(その1) No.57・低い音の練習No.58	18	へ長調よりハ長調への転調No.81				
4	へ長調のの音階No.59・No.60	19	3度の重音と8度の跳躍No.81				
5	8vaの練習・ト長調の音階No.62・No.63	20	弱起の曲No.83・No.84				
6	高い音の練習(その2) No.64・No.65	21	二長調の主要三和音No.85・二短調主要三和音				
7	高い音の練習(その2) No.66・No.67	22	装飾音No.87・No.88				
8	臨時記号No.68・半音階No.69	23	装飾音No.89・No.90				
9	16分音符のリズムNo.70・No.71・No.72	24	複付点音符No.91・No.92				
10	イ短調の主要三和音No.73・No.74	25	複付点音符No.93・No.94				
11	イ短調の主要三和音No.75・No.76	26	補充教材 March				
12	課題の練習①	27	課題の練習①				
13	課題の練習②	28	課題の練習②				
14	課題の練習③	29	課題の練習③				
15	課題の練習・小テスト	30	課題の練習・小テスト				
教科書・参考文献	教職課程のための大学ピアノ教本						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	個人レッスンとなるため、個々の修得度合いに合わせて課題調整等々のフィードバックを行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「3」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及 び基準	小テスト2回各50点とし、60点以上を合格とする						
実務経験と担当科 目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
こどもの造形と遊び		コース 選択科目	演習	1	S501		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
太田 望		2	前期	選択	幼	保	社
授業概要	遊びを通しての保育・教育の視点から、造形遊びの教育的な意義について教材研究の演習に取り組み、こども理解に根ざした造形活動についての理解を専門的に深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材研究をこどもの発達や個性的な表現の違いの視点で理解することができる。</li> <li>教材研究を通して学修したことを元に模擬保育を計画、実践することができる。</li> </ul>						
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>前半は、多様な材料や用具を中心とした教材研究を通して、こどもにとっての教材としての意味や価値について考える。</li> <li>後半はグループワークによる教材研究と模擬保育に取り組む。</li> </ul>						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業についての予習復習の学修が30分程度必要。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	オリエンテーションとガイダンス・教材研究(紙との出会い)	9	模擬保育の計画(活動内容の計画と決定)				
2	教材研究(はさみとノリとの出会い)	10	模擬保育の計画(教材研究1)				
3	教材研究(クレヨン・パス・ペンとの出会い)	11	模擬保育の計画(教材研究2)				
4	教材研究(絵の具を知る)	12	模擬保育の計画(教材研究3)				
5	教材研究(自然物との出会い)	13	模擬保育の計画(対象年齢と環境構成、支援)				
6	教材研究(リサイクル素材との出会い)	14	模擬保育の実践と振り返り				
7	教材研究(粘土を知る)	15	模擬保育の実践と振り返り、まとめ				
8	教材研究(墨の魅力)						
教科書・参考文献	『美育文化ポケット』(公益社団法人 美育文化協会)						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	オフィスアワーにて随時受け付ける。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	発表(20%)、グループワークでの作成物(20%)、提出されたレポート(60%)等を総合的に評価する。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
こどもの音楽と遊び		コース 選択科目	演習	1	S502		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
江端深雪		2	前期	選択	幼	保	社
授業概要	基礎的な音楽力を基に、多岐にわたる音楽体験を通して保育の内容・方法を深化させる。子どもの感性を育み、創造力や表現力を豊かに育てることができる保育の実践を目指し、音楽や遊びを身近に感じられる学習の場を設定する。						
到達目標	保育者自身が「音楽の楽しさ」を体感することで表現の世界を拓げ、子どもと共に音楽を楽しみ合える実践的な音楽能力を養う。						
授業の方法	音楽やリズムに合わせて楽しむ遊び、音に触れて楽しむ遊びに加え、様々な楽器や手法を使ってバリエーション豊かな音楽活動を展開する。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	ピアノレパートリーの充実やアンサンブルにおける担当パートの個人練習のため、30分～1時間程度の予習・復習が必要。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	遊びのためのレパートリー曲				
2	ML アンサンブル	10	ボディパーカッション				
3	表現遊び (1)	11	ボイスパーカッション				
4	表現遊び (2)	12	器楽アンサンブル (1)				
5	ミュージックベル	13	器楽アンサンブル (2)				
6	発表と振り返り	14	器楽アンサンブル (3)				
7	トーンチャイム	15	振り返りと小テスト				
8	発表と振り返り						
教科書・参考文献	必要資料を配布。						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	楽器演奏については、各個人へ習熟度に応じたアドバイスを行い、今後の学習に反映させる。アンサンブル等についても、個々に助言をしながら音楽全体の調和や練習過程、演奏評価を含めフィードバックを行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	課題・小テスト(60%) グループにおける活動状況および楽器演奏(30%) アンサンブル完成度(10%) 以上を総合的に判断し、評価する。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
こどもの健康と遊び		コース 選択科目	演習	1	S503		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
池田 隼		2	後期	選択	幼	保	社
授業概要	健康教育の重要性や必要性の理解を深め、乳幼児が自発的に活動することのできる環境構成を構成する力を身につけるとともに、運動遊びの安全な援助方法や指導方法を学ぶ。						
到達目標	運動遊びの計画・実践・評価を行い、実践の評価視点を身につけるとともに、子どもたちが夢になって遊ぶ環境の設定について実践を通して学ぶことを目的とする。						
授業の方法	運動遊びの計画を立て模擬保育を行う。また、他者の模擬保育を園児役として参加し、模擬保育の評価を行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	模擬保育の指導案作成の提出、模擬保育の準備等を行うこと。(2時間程度) 実践の反省や自己評価等を踏まえたレポートを提出する。(1時間程度)						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション	9	模擬保育(実践・反省) 6				
2	指導案作成について①	10	模擬保育(実践・反省) 7				
3	指導案作成について②	11	模擬保育(実践・反省) 8				
4	模擬保育(実践・反省) 1	12	模擬保育(実践・反省) 9				
5	模擬保育(実践・反省) 2	13	模擬保育(実践・反省) 10				
6	模擬保育(実践・反省) 3	14	模擬保育(実践・反省) 11				
7	模擬保育(実践・反省) 4	15	まとめ・振り返り				
8	模擬保育(実践・反省) 5						
教科書・参考文献	資料を配布						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	模擬保育について、個別にフィードバックを行い、実践の振り返りを行う。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	模擬保育(60%)、指導案(20%)、毎時提出されたレポート等の課題評価(20%)を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。						
実務経験と担当科目 内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
地域福祉論		コース 選択科目	講義	2	S604		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
大島文輝		2	前期	選択	幼	保	社 ◎
授業概要	地域福祉の概念や発展過程を踏まえ、実施主体の役割や連携、実践方法を学び、社会福祉に必要な知識を身につける。						
到達目標	1、地域福祉の基本的な考え方とシステムを理解する。 2、フォーマル、インフォーマルの役割や連携を理解する。 3、地域福祉の推進方法と現状の課題を理解する。						
授業の方法	プリントやスライドを用いて講義形式で授業を行う。必要に応じて、地域福祉の推進方法などについてグループワークを通して考える。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	毎回、講義終了時に予告する次週の授業テーマについて予習をする。(20分程度) スライド表示したものや配布したプリントを再確認して復習をする。(20分程度)						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	地域福祉の推進主体②(インフォーマル/専門職)				
2	地域福祉の概念	10	地域福祉の推進方法①(グループワーク)				
3	コミュニティと地域福祉	11	地域福祉の推進方法②(グループワーク)				
4	地域福祉の理念	12	地域福祉のサービスと活動				
5	地域福祉の歴史	13	地域福祉の財源				
6	地域福祉の法・制度	14	地域福祉の今後、課題				
7	地域福祉の対象	15	講義内容の振り返り				
8	地域福祉の推進主体①(フォーマル)						
教科書・参考文献	参考文献：ストーリーで学ぶ地域福祉(有斐閣ストウディア)、 持続可能な地域のつくり方(英治出版)						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内試験の実施後に返却し解答、解説を行うことで、各々の理解度を再確認する。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内筆記試験(100%)を原則とし、グループワーク(積極性、論理的思考、他者への配慮)の実施状況から、授業の到達目標の達成度合いを含めて総合的に判断して評価し、単位認定を行う。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
ボランティア活動論		コース 選択科目	講義	2	S602		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
渡谷能孝		2	後期	選択	幼	保	社
授業概要	ボランティアの歴史や実施体制、現代におけるボランティアの課題と今後について学習し、多角的な視点から幅広くボランティアを捉え、各々の新たな考え方に気づく。						
到達目標	地域活動に貢献できる奉仕の心を育み、地域に貢献できる力を身につけることをねらいとします。						
授業の方法	スライド、映像、プリントを用いた形式で授業を行うとともに、社会のボランティア課題についてグループディスカッションを行う。また、ボランティアで役立てられる演習を実施する。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	講義終了時に、次回の講義に向けた予習課題を出します(20分程度)。 授業において配布した資料を再確認する(15分程度)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス・ボランティアとは	9	ボランティアに役立てる実践演習Ⅰ				
2	ボランティアの意味・始まり	10	ボランティアに役立てる実践演習Ⅱ				
3	社会とボランティアⅠ	11	ボランティアに役立てる実践演習Ⅲ				
4	社会とボランティアⅡ	12	ボランティアに役立てる実践演習Ⅳ				
5	ボランティアの活動形態	13	ボランティアに役立てる実践演習Ⅴ				
6	ボランティアにおける課題(グループワーク)	14	ボランティアのこれから				
7	ボランティアとNPO	15	講義総括				
8	有償ボランティア						
教科書・参考文献	講義内で随時紹介						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	講義内において課題の解説をした上で、各々の理解度を再確認する。						
学習成果との関連	当該科目の学習成果の「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	提出課題 30%・レポート 70%による総合評価を原則とし、授業の到達目標の達成度合いを含めて総合的に判断して評価します。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
福祉住環境コーディネーターⅠ		コース 選択科目	演習	1	S603		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
渡谷能孝		2	前期	選択	幼	保	社
授業概要	少子高齢社会における住環境整備の重要性、必要性を理解し、支援者としての専門的な知識を身に付ける。また、各専門職やご家族の調整をし、安心・安全・快適な住まい福祉社会の観点から住環境に対する理解を深める。						
到達目標	多角的な支援のできる保育者として、高齢者、障がい者、子どもが安心して生活することのできる住環境について理解することをねらいとする。 福祉住環境コーディネーター3級取得を目指す。						
授業の方法	テキスト、スライド、映像を用いた形式で授業を行い、授業内容の確認を含めて福祉住環境コーディネーター3級の練習問題を実施する。 住環境から発見できる課題について考え、その課題解決に向けたグループワークを実施する						
予習・復習等 及び必要時間(分)	教科書を読んで事前学習を行うこと(15分程度)。 授業内で実施した練習問題から、出題の要点と傾向の確認をすること(30分程度)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス・福祉住環境コーディネーターとは	9	生活福祉用具				
2	現在の高齢社会と福祉	10	住まい整備のための基本技術				
3	福祉住環境の重要性・必要性	11	福祉住環境整備(屋内外の移動)				
4	介護保険制度についてⅠ	12	福祉住環境整備(排泄・整容・入浴)				
5	介護保険制度についてⅡ	13	福祉住環境整備(清掃・調理・就寝)				
6	高齢者の健康と自立Ⅰ	14	安心できる住生活(グループワーク)				
7	高齢者の健康と自立Ⅱ	15	安心できるまちづくり				
8	バリアフリーとユニバーサルデザイン						
教科書・参考文献	教科書：改訂6版 福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業時間に練習問題にトライし、解答と解説を実施することで各々の理解度を高める。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果の方針「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内筆記試験(100%)を原則とし、グループワークの実施状況から、授業の到達目標の達成度合いを含めて総合的に判断して評価します。						
実務経験と担当科目内容との関連	在宅サービスにおける実務経験から、より具体的な授業展開を図る。						

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
教育カウンセリング心理学		コース 選択科目	演習	1	S701		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
阿部千春		2	後期	選択	幼	保	社
授業概要	教育領域における心理的問題、個と集団との関係などについて教科書や体験を通して学びます。						
到達目標	教育カウンセリング心理学に関する基本的な知識と技法を習得することを目的とします。						
授業の方法	教科書と講義資料を用いて講義形式で行い、グループワークやロールプレイ、ケーススタディなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習も行います。授業内で行う試験を受験することとレポートを提出することが単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んで予習してください。(30分程度) 授業後は、講義資料や関連する書籍を読むなどして、復習してください。(40分程度)						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	認知行動療法②				
2	個別面接の技法モデル	10	アドラー心理学				
3	個別面接の諸形態と技法	11	よりよい学習者を育てる				
4	ソーシャルスキル教育①	12	事例研究① 事例報告の書き方				
5	ソーシャルスキル教育②	13	事例研究② ケースカンファレンス				
6	ソーシャルスキル教育③	14	学級集団のアセスメントとコンサルテーション				
7	ストレスマネジメント教育	15	講義総括				
8	認知行動療法①						
教科書・参考文献	教科書：NPO 日本教育カウンセラー協会編「新版 教育カウンセラー標準テキスト 中級編」「新版 教育カウンセラー標準テキスト 初級編」図書文化						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	テスト解説を行うことで、誤答問題の見直しができるようにします。また、具体的な学習方法について提示します。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」に該当する科目です。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	成績評価は、授業内試験(70%)、レポート(20%)、授業後に提出する感想カード(10%)によって総合的に評価し、単位を認定します。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
セラピー概論		コ ー ス 選択科目	講 義	2	S702		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
阿 部 千 春		2	前 期	選 択	幼	保	社
授業概要	カウンセリング心理学におけるさまざまな援助方法の理論と実際を学び、それぞれの理論・技法を実際の保育・幼児教育の現場でどのように役立てられるかについて検討することを目的とします						
到達目標	カウンセリング心理学におけるさまざまな援助方法の理論や技法についての基礎的な知識を習得することをめざします。						
授業の方法	教科書と講義資料を用い、講義を行った後で、グループワークやケーススタディなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習を行います。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んで予習してください。(30分程度) 教科書の内容が教育カウンセラー補の試験範囲となりますので、授業後は十分に復習してください。(40分程度)						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	ブリーフ・セラピー				
2	精神分析理論	10	家族療法				
3	自己理論①	11	表現療法①				
4	自己理論②	12	表現療法②				
5	ゲシュタルト療法	13	箱庭療法				
6	論理療法	14	自律訓練法				
7	交流分析	15	講義総括				
8	行動療法						
教科書・参考文献	教科書：NPO 日本教育カウンセラー協会編「新版 教育カウンセラー標準テキスト 初級編」「新版 教育カウンセラー標準テキスト 中級編」図書文化 参考文献：長尾博著「心理・精神療法ワークブック」誠信書房						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	テスト解説を行うことで、誤答問題の見直しができるようにします。また、具体的な学習方法について提示します。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」に該当する科目です。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	成績評価は、授業内試験(80%)、授業後に提出する感想カード(20%)によって総合的に評価し、単位を認定します。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
保育心理演習		コース 選択科目	演習	1	S703		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
阿部千春		2	前期	選択	幼	保	社
授業概要	保育・幼児教育の現場で出会う心理的な問題を取り上げ、それらの理解のしかたと対応方法について検討します。						
到達目標	具体的な事例を通して、保育実践に生かせる専門的知識と技術を習得することを目的とします。						
授業の方法	講義資料を用い、講義を行った後で、グループワークやケーススタディなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習も行います。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業後は、講義資料や関連する書籍を読むなどして、復習してください。(40分程度)						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	生活習慣について				
2	乳幼児期における心理的特性とその対応	10	事例検討(生活習慣について)				
3	児童期における心理的特性とその対応	11	言葉の遅れについて				
4	子どもの心の問題と保育・教育相談①	12	事例検討(言葉の遅れについて)				
5	子どもの心の問題と保育・教育相談②	13	ソーシャルスキルについて				
6	アセスメントの基礎	14	事例検討(ソーシャルスキルについて)				
7	事例検討の方法①	15	講義総括				
8	事例検討の方法②						
教科書・参考文献	教科書：なし、参考文献：藤原義博監修「保育士のための気になる行動から読み解く子ども支援ガイド」学苑社						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	テスト解説を行うことで、誤答問題の見直しができるようにします。また、具体的な学習方法について提示します。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」に該当する科目です。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	成績評価は、授業内試験(80%)、授業後に提出する感想カード(20%)によって総合的に評価し、単位を認定します。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
幼児総合研究		自由選択 科 目	演 習	2	F101		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
山崎 理恵子		2	集中	選 択	幼	保	社
授業概要	運動遊びの実践を通し、運動の楽しさやダンスの特性を踏まえた指導・援助方法などについて実践を通して学ぶ。						
到達目標	運動遊びの実践を通して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法や保育実践の評価方法について学びを深めることを目的とし、舞台発表を体験する。						
授業の方法	主に実技形式で行う。運動遊びの実践を通し、運動することの楽しさや運動の特性を踏まえた指導・援助方法など実践を通して学習する。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	創作ダンスの振り作成案などの予習が必要である。(2時間程度)						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	表現遊び(ダンス)基礎的な動き	9	表現遊び(ダンス)⑧				
2	表現遊び(ダンス)基礎的な動き	10	表現遊び(ダンス)⑨				
3	表現遊び(ダンス)②	11	表現遊び(ダンス)⑩				
4	表現遊び(ダンス)③	12	表現遊び(ダンス)⑪				
5	表現遊び(ダンス)④	13	表現遊び(ダンス)⑫				
6	表現遊び(ダンス)⑤	14	表現遊び(ダンス)⑬				
7	表現遊び(ダンス)⑥	15	発表				
8	表現遊び(ダンス)⑦						
教科書・参考文献							
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	単元ごとにフィードバックを行う。要点を再確認した後、遊びやねらいに応じた指導・援助方法について理解を深める。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「2」「3」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	実技、その他を総合的に評価し、60点以上で合格とし、1年前期の評価と合わせて総合評価となる。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
国際保育理解		自由選択 科 目	演 習	1	F102		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
こども学科担当教員		1・2	集 中	選 択	幼	保	社
授業概要	世界がグローバル化している時代にあつて、私たちがより平和な、質の高い国際的交流協力関係を築いていくためには、言語、文化、歴史の理解はもとより、国際的な交流や協力の意義、それに内在する諸問題を深く理解していかなければならない。この講座は、函館市と姉妹都市関係にある韓国高陽市への研修旅行を軸にして韓国の幼稚園・保育園訪問・見学・交流を行う。						
到達目標	アジアから世界へと広く繋がっている世界を体験的に学ぶことと国際保育の理解を目標とする。						
授業の方法	韓国研修旅行の事前研修（講義）と韓国研修旅行により行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	研修旅行を充実したものにするためには、十分な事前学習が必要で、事前研究前に韓国文化を調べるなどの1時間ほどの事前学習が必要。						
履修条件	学年・学校は問わず、コンソーシアム函館に加盟している学校の単位互換として、函館の他短大・大学の学生の参加も可能。						
授 業 計 画							
1	講義 オリエンテーション	9	研修旅行				
2	事前研修 韓国語	10	研修旅行				
3	事前研修 日韓の歴史的関係	11	研修旅行				
4	事前研修 韓国の衣食住文化	12	研修旅行				
5	事前研修 海外旅行の準備・注意点	13	研修旅行				
6	研修旅行	14	研修旅行				
7	研修旅行	15	研修旅行のまとめ				
8	研修旅行						
教科書・参考文献	なし						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	研修の準備段階において、浴衣の着付けや語学の勉強が含まれる。着付けにおいては、できた点や改善点を、語学においては復習内容と成果を事前研修時間内でコメントとしてフィードバックする。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「4」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「2」「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	事前研修への参加状況 40%、国際交流の意欲および現地交流参加度 30%、レポート 30%、による総合評価。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科目名		分類	授業区分	単位	ナンバリング		
ウインタースポーツ		自由選択科目	演習	1	F103		
担当教員氏名		年次	開講期	卒業要件	資格		
渡谷能孝		2	集中	選択	幼	保	社
授業概要	スポーツが身体に与える影響を正しく理解し、今後の生活に役立てると共に生涯スポーツへの実践力を培うことをねらいとする。						
到達目標	スポーツが身体に与える影響を正しく理解し、今後の生活に役立てると共に生涯スポーツへの実践力を培うことをねらいとする。						
授業の方法	後期講義終了後、集中講義を行います。実施地は函館七飯スキー場。						
予習・復習等及び必要時間(分)	毎日の振り返りと記録に1時間、用具の準備・整備・管理等準備と予習に30分及び健康管理						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	ごくゆるい斜面での練習				
2	ウインタースポーツの特性と学習計画	10	長い距離の滑走				
3	スキーの歴史、スノーボードの歴史	11	様々なリズムでの滑走				
4	ウインタースポーツと安全	12	大まわり、中まわり、小まわり				
5	上達するための練習過程	13	技能に合ったスピード、斜面				
6	用具・用品についての基礎知識	14	ターンの質の向上				
7	用具・用品の取り扱い方	15	斜度、雪質などの状況に対応した滑り				
8	基本姿勢と基本動作の確認						
教科書・参考文献							
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	最終日に総括として、担当教員よりまとめがあります。						
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」に該当する科目である。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内での評価100% (競技に取り組む姿勢や上達度)						
実務経験と担当科目内容との関連							

## オフィスアワーについて(2023 年度)

### オフィスアワーとは

オフィスアワーは、学生が授業のことや学校生活のことなどについて、質問・相談あるいは個人的に指導を受けるために設定された時間です。充実したキャンパスライフを過ごすために、有効に活用してください。

なお、オフィスアワーに設定されている時間であっても、会議や出張等で不在になる場合は各研究室前に掲示します。

また、オフィスアワー時間帯以外でも質問・相談等を受けますので、各教員の都合を確認してください。

### オフィスアワーの曜日・時間

教員氏名	曜日	時間帯
藤村 敦	火曜日	16:25~17:25
藤野 明信	水曜日	16:25~17:25
乳井 英雄	水曜日	16:25~17:25
毛利 悦子	月曜日	16:25~17:25
渡谷 能孝	月曜日	16:25~17:25
渋田 昌士	月曜日	16:25~17:25
阿部 千春	木曜日	16:25~17:25
伊藤 聡	月曜日	16:25~17:25
伊藤 好一	金曜日	16:25~17:25
池田 隼	金曜日	16:25~17:25
太田 望	月曜日	16:25~17:25
土谷 育代	水曜日	16:25~17:25
村田 あきの	金曜日	16:25~17:25
今在 景子	木曜日	16:25~17:25

